

外來人工氣胸經過中ニ於ケル赤血球沈降速度 (S. R.) 及ビ白血球核移動ノ推移ニ就イテ

金澤醫科大學大里内科教室(大里教授指導)

舊石川縣健康相談所主任醫(中島博士指導)

石川縣健康相談所 竹谷幸太郎

Kôtarô Takeya

(昭和13年9月10日受附)

内容抄録

昭和11年7月ヨリ同13年5月迄ノ間ニ吾ガ石川縣健康相談所ヲ來訪セシ多數肺結核患者中ヨリ主トシテ偏側人工氣胸適應症45名ヲ選擇シ外來人工氣胸ヲ施行シ經過中ニ於ケル赤血球沈降速度及ビ中性嗜好白血球ノ核移動ヲ主眼トシ檢査セルモノニシテ内容抄録下ノ如シ。

1) 良好ナル經過ヲ辿ルモノニ於テハS.R.ハ正常數マデ遲延シ得。平均核數亦右方移動シ健常人閾ニ達シ得。

2) 滲出液瀧溜セルモノニ於テハ概シテ滲出液ノ出

現前後ニ於テS.R.ハ速進、平均核數左方移動ス。

3) 高度ノ肋膜癒着發見例ニ於テハ萎縮當初ニ輕度S.R.ハ遲延スレドモ後チ再ビ速進シ、平均核數亦萎縮當初ニ右方移動スレドモ再ビ左方移動ス。

4) 反對側新病竈ノ出現及ビ反對側増悪ヲ見シ例ニ於テハS.R.ハ最初ヨリ速進スルモノ、最初遲延新病竈ノ出現及ビ増悪期ニ速進スルモノ等アレドモ概シテ新病竈ノ出現及ビ増悪期ニハ速進ス。平均核數ハ概シテ新病竈ノ出現及ビ増悪期ニ左方移動ス。

目次

緒言

第1章 實驗方法

第2章 實驗成績

第1節 良好ナル經過ヲ辿リシ例

第2節 考慮スベキ滲出液ノ瀧溜ヲ見シ例

第3節 高度ノ肋膜癒着ヲ發見セシ例

第4節 反對側新病竈ノ出現及ビ反對側ノ増悪ヲ見シ例

第3章 總括並ニ考按

結論

主要文獻

緒言

人工氣胸ノ沿革ハ1822年スコットランドノ生理學者 Carson 氏ノ提議ヲ以テ嚆矢トスル。

Robert Koch ガ1882年結核菌ヲ發見セルト同年ニ伊人 Forlanini⁽¹⁾⁽²⁾ ハ人工的閉鎖性氣胸ニ

依ル肺結核療法ヲ提言シ現代氣胸療法ノ基礎ヲ創造セリ。

ソノ後 Brauer⁽³⁾, Spengler⁽³⁾, Saugman⁽⁴⁾, Hansen⁽⁴⁾, Zinn⁽⁶⁾, Geppert⁽⁶⁾, 熊谷⁽⁶⁾, 永井⁽⁷⁾等ノ業績ニ於テ益々該療法ノ顯著ナル効果ガ認めラル、ニ至レリ。而シテ肺結核ニ對シ該療法ガ顯著ナル効果ヲ齎ラス所以ノモノハ患者ノ自覺的並ニ他覺的症狀ガ良好ナル經過ヲ迎ル根據ヲ有スレバナリ。他覺的症狀中重要ナル治癒判定ノ役割ヲ演ズル「レントゲン像」ニ就イテ良惡ヲ論ズルハ遠隔試驗ニ屬スルガ故ニ茲ニ於テハ單ニ血液ノ諸變化中特ニ興味アリシ赤血球沈降速度(S.R.)ト血液像特ニ中性嗜好白血球ノ平均核數ヲ主眼トシ附加的ニ諸種自覺的症狀ガ外來氣胸經過中ニ如何ニ變動セシカラ論ゼントス。

抑モ S.R. ハ1917年 Fähræus⁽⁹⁾ ガ枸橼酸ナトリウム水溶液ヲ以テ血液ノ凝固スルヲ防ギ之ヲ試験管内ニ放置スル時ハ妊婦、敗血症、悪性腫瘍其ノ他諸種ノ疾患ニ於テ赤血球ノ沈降スル時間ガ健康者ノ血液ヨリモ遙カニ速カナルコトヲ發見セルニ始マリ、ソノ後此ノ非特異性反應ヲ結核患者ニ應用スルモノ跡ヲ絶タズ。即チ

Westergren⁽⁸⁾, Katz⁽⁹⁾, Frisch⁽¹⁰⁾⁽¹¹⁾, Starlinger⁽¹⁰⁾⁽¹¹⁾, Mathe⁽¹²⁾, Müller⁽¹³⁾, Windrath⁽¹⁴⁾, Garnatz⁽¹⁴⁾, 渡部⁽¹⁵⁾, 大谷⁽¹⁶⁾, 山口⁽¹⁷⁾, 小坂⁽¹⁸⁾, 倉金⁽¹⁹⁾, 向野⁽²⁰⁾等故擧ニ追アラズ。要スルニ活動性ニシテ廣汎ナル病竈ヲ有スル肺結核患者ニ於テハ常ニ S.R. ノ速進アルヲ認ムルナリ。

次ニ氣胸ノ際ノ S.R. ニ就イテハ Schneider⁽²¹⁾ Düll⁽²²⁾, Maendl⁽²³⁾, 向野⁽²⁴⁾, Mathé⁽¹²⁾, Müller⁽¹³⁾等アリ。

多數ノ文獻アルモ孰レモソノ説クトコロ Rita Gripenberg⁽²⁵⁾ ガ1925年肺結核ニ人工氣胸ヲ施行セル際ノ S.R. ト題シ51例ニ就イテノ氏ノ實驗ノ結果ニ賛同スベキモノト信ジ原文ヲ引用スレバ

1) 人工氣胸ヲ施行セル患者ノ S.R. ハ臨床上ノ病狀ト平行シテ經過ス。

2) 人工氣胸前又ハ施行最初ニ速進セル S.R. ハ必ずシモ豫後ノ惡化ヲ意味スルモノデナイ。

3) 有効ナル肺萎縮状態ヲ來セル場合又ハ反對側ノ増悪ノナキ場合ニハ S.R. ハ正常數ニ近ヅキ得ルモノナリ。

4) S.R. ガ僅少ナル減少ヲ來セル症例ニ於テハ屢々結核病竈ノ進行ヲ停止セシムルガ如キ充分ナル肺萎縮ヲ見ズ。

5) 氣胸中ノ滲出液出現ニ於テハ普通ノ濕性肋膜炎ノ場合ノ様ニ大抵ノ場合 S.R. ノ速進ヲ來スモノナリ。

次ニ中性嗜好白血球ノ核移動ニ就イテハ Arneht⁽²⁶⁾, 研究報告以來多數學者ニ依ツテ追試サレタルモ曩キニ本學杉山教授⁽²⁷⁾⁽²⁸⁾ ガ2項式平均核移動說ヲ提案セラレテヨリ同門下ヨリ業績續出セリ。即チ深山, 大里⁽²⁹⁾, 入江, 橋, 藤田, 宮村⁽³⁰⁾⁽³¹⁾ハ健康人ニ就イテ, 加藤⁽³²⁾ハ臟器及ビ組織中ニ於ケル白血球ノ核移動ニ就イテ, 市場⁽³³⁾ハ外科的疾患ニ就イテ, 大月⁽³³⁾ハ寒天法ニ依ル固定標本ガ塗抹固定標本ニ優ルコトヲ力説セリ。結核患者ニ就イテモ倉金⁽¹⁹⁾ハ多數患者ニ就イテ同法ニ依リ實驗經驗セリ。余モ亦氣胸經過中ノ核移動ハ凡テ杉山式2項式平均核數法ニ依ルコトニセリ。

人工氣胸ト血液像トノ關係ニ就イテハ短時間内ノ變化ニ就キ Altschuller⁽³²⁾, Chini, Virgilio⁽³⁶⁾, 佐々木⁽³⁸⁾等アリ。之ハ余ノ實驗外ニ屬ス。經過的觀察ヲナセルモノニ Everbusch⁽³⁹⁾, Gutstein⁽⁴⁰⁾, Russew⁽³⁷⁾ 向野等⁽⁴¹⁾アリ。彼等ハ良好ナル氣胸經過ニ於テハ中性嗜好白血球ノ減少, 淋巴細胞, 「エオジン嗜好性白血球」ノ増加ヲ認め核移動ハ右方移動スト發表セリ。

余ハ以上ノ検査法ヲ主眼トシ健康相談所ニ於テ施行セル外來人工氣胸療法ガ如何ナル經過ヲ迎リシカラ發表セントス。本邦ニ於テ斯カル研究ヲ發表セル例ヲ未ダ見ズ。

Tenenbaum u Reiterowski⁽⁴²⁾ ハ1931年外來人工氣胸療法ニ就イテ次ノ如ク報告セリ。

1) 收容氣胸患者ト外來氣胸患者トノ間ノ治療成績ニ大差ナシ。

2) 外來氣胸ニ於テハ收容氣胸ニ際シテ現ハル、合併症數ヨリ大ナラズ。

3) 收容氣胸6, 7回瓦斯補充後相當ノ良好ナル結果ヲ齎ラン初メテ外來氣胸ニ移ルベキモノナリト。

4) 公立又ハ私立療養所ノ病床數ノ不足ヲ考慮シ外來氣胸所ノ設置ニ考ヘ及バネバナラスト。

第1章 實驗方法

實驗材料 昭和11年7月ヨリ昭和13年5月マデノ間ニ石川縣健康相談所ヲ來訪セン肺結核患者45名ヲ使用セリ。

人工氣胸 主トシテ偏側氣胸適應症ヲ選擇セリ。

人工氣胸器 當内科大澤講師考按ニ依ルモノ。

検査方法 氣胸直前1回, 氣胸後ハ1ヶ月毎ニ血液像及ビ赤血球沈降速度ヲ觀察セリ。

氣胸前ニマントー氏反應ヲ施行セリ。使用液ハ俾研舊ツベルクリン1000倍溶液0.1ccニシテ左前腭内側ニ注射シ48時間後ニ判定セリ。

血液像 空腹時ニ壓ヲ加ヘズシテ耳朶ヨリ流出スル血液ヲ型ノ如ク塗抹シ「メチールアルコール」ニテ固定シ Giemsa 氏液ニテ染色シ白血球200個, 中性嗜好白血球100個ヲ同時ニ觀察シ平均核分葉數ハ杉山式2項式分類法ニ從ヒタルモ連結橋ニヨル核型ガ充分ニ分節ノ印象ヲ興ヘルモノハ別個ノ分葉トシテ計算セリ。

赤血球沈降速度 (S.R.ト略ス)。

Westergren, ノ装置ニヨリ原法ニ從ヒ室温ニ放置セルモ岡部氏溫度訂正表⁽⁵³⁾ニヨリ略ボ20°Cニ換算シ, 1時間, 2時間, 24時間後ノS.R.ヲ測定記載セリ。中等價ハKatzノ方式 $M.V. = \frac{A + \frac{B}{2}}{2}$ ニヨリ決定ス。(Aハ1時間値Bハ2時間値)

萎縮状態

萎縮状態ヲ表示スルニ次ノ如キ記號ヲ使用セリ。

(+) 軽度萎縮。レントゲン透視及寫真上面積略ボ3/4迄萎縮セル場合。

(++) 中等度萎縮。〃 3/4乃至1/2マデ萎縮セル場合。

(+++) 高度萎縮。〃 1/2乃至1/4迄萎縮セル場合。

(++++) 極度萎縮。〃 1/4以内ニ萎縮セル場合。

以上ハ肋膜癒着ナク完全氣胸ヲ形成セル場合ニシテ

肋膜癒着アル時ハ其ノ程度ヲ記號ヲ以テ表示スルコトナク單ニ説明スルニ止メタリ。

滲出液程度

滲出液程度ヲ表示スルニ次ノ如キ記號ヲ使用セリ。

(+) 肺野下1/8迄滲溜セル場合。

(++) 肺野下1/8乃至1/4迄滲溜セル場合。

(+++) 肺野下1/4乃至1/2迄滲溜セル場合。

(++++) 肺野下1/2乃至鎖骨下迄滲溜セル場合。

尚ホ人工氣胸中ニ邊縁滲出液ノ出現ハ殆ンド90%以上ニ之ヲ見ルモノニシテ余ノ實驗ニ於テモ數例ヲ除キ他ノ凡テノ場合ニ於テ經驗セルモ之ハ比較的短時日ニシテ, 消褪スル性質ヲ有スルモノナレバ記號ヲ附シ考慮スベキ滲出液トシテハ取り扱ハザリキ。

人工氣胸45例ヲ次ノ如ク分類セリ。

第1節 良好ナル經過ヲ辿リシ例, 23。

完全氣胸ヲ形成シ自覺的症狀消失, 體重ノ増加S.R.ノ遲延, 中性嗜好白血球平均核數ノ右方移動セシモノヲ包含セリ。

第2節 考慮スベキ滲出液ノ滲溜ヲ見シ例, 7。

滲出液程度(+)即チ肺野下1/8以上滲溜セル場合ヲ考慮スベキ滲出液ト見做セリ。

第3節 高度ノ肋膜癒着ヲ發見セシ例, 7。

人工氣胸例ハ凡ベテ横隔膜肋骨竇ノ強銳角ニシテ呼吸ニ際シ活潑ナル運動ヲナシ肋膜癒着ナカリシモノヲ選擇スレドモ氣胸施行ニ際シテ意想外ノ癒着ヲ發見スルコト往々ニシテアリ。又命ゼラレタル期日ニ患者來訪不可能ナリシ爲高度ノ肋膜癒着ヲ生ゼルモノハコノ内ニ包含セリ。

第4節 反對側新病竈ノ出現及ビ反對側増悪ヲ見シ例, 8。

反對側新病竈ノ出現及ビ反對側増悪ヲ主トセルモ滲出液出現2, 高度ノ肋膜癒着招來2ヲ包含セリ。

第2章 實驗成績

第1節 良好ナル經過ヲ辿リシ例

(1) 中田某 19歳 (♀)

職業 事務員 初診 昭和11年7月10日.

診断 左肺浸潤 家族歴既往症 ナシ.

現病歴 數日來風邪ノ氣味ニテ咳嗽, 喀痰, 盜汗ヲ訴フ.

初診時理學的所見 左胸部第3第4肋間マデ輕度ノ濁音ヲ呈シ該濁音界ニ於テ少許ノ小水泡音ヲ聴取ス.

レントゲン所見 左肺中野ニ雞卵大ノ境界稍ヤ鮮明ナル軟陰翳像ヲ認ム.

ガフキー0號. マントウ氏反應 3×4.5cm.

左肺萎縮狀態經過 肋膜癒着ナク, 完全氣胸ヲ形成シ補充注入17回ニシテ萎縮狀態(卅), ソノ間1週1回ノ送氣ニテ總送氣量 6,000cc ナリ. S.R. 及ビ平均核數ハヨク萎縮狀態ニ一致シ正常値トナレリ. 白血球百分率ニ就テハ著變ナカリシモ N. ハ増加シ L. ハ減少ノ傾向アリテ正常數ヲ保タントスルモノノ如シ.

觀察期間5ヶ月後來所セズ. 體溫體重ニ變化ナク主訴消失ス.

第1表 中田某 19歳 (♀)

日 月	氣胸 回数	S. R.			N. 白血球核分葉數 (觀察細胞100)						白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮狀態	體重
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V	平均核數	N	L	M	E	B		
11/7	初回前	28	55	93	30	50	18	2		1.92	50	40.5	3	6.5		-	46 kg
15/8	5N.F	17	43	90	18	63	17	2		2.03	57	34	1.5	7.5		+	45.5 "
12/9	9N.F	15	32	93	20	64	12	4		2.00	62	32.5	4	1.5		++	44 "
12/10	13N.F	8	18	82	12	58	24	6		2.24	65.5	23.5	6	5		+++	44.5 "
12/11	16N.F	5	13	74	10	54	30	5	1	2.33	59.5	32	6	2.5		+++	46 "
8/12	18N.F	6	8	70	14	55	27	2	2	2.23						+++	46 "

N. F. 後充盈 Nach Füllung ノ略.

(2) 村某 22歳 (♀)

職業 農業. 初診 昭和11年8月3日.

診断 右鎖骨下浸潤.

家族歴及ビ既往症ニ結核性疾患ナシ.

現病歴 去月初旬ヨリ胸部倦怠感, 食慾不振ナリト.

初診時理學的所見ナシ.

レントゲン所見 右鎖骨下外側ニ於テ徑2.5cm大ノ滲出性ト見做シ得ル軟陰アリ.

ガフキー0號. マントー氏反應 4×4cm.

右肺萎縮狀態經過完全氣胸ヲ形成シ補充注入23回ニシテ萎縮狀態(卅) 總送氣量 9,890cc ナリ.

S.R. 及ビ平均核數ハヨク萎縮狀態ニ一致シ正常値トナレリ.

白血球百分率ニ就キテハ N. ハ減少 L. ハ増加 M 及ビ E. ハ發現シ正常ノ平衡ヲ保タントス.

觀察期間6ヶ月後來所セズ. 體溫ニ變化ナク, 體重ハ 40kg ヨリ 43kg トナリ 3kg ヲ増加シ一般狀態可良トナル.

第2表 村某 22歳 (♀)

日 月	氣胸 回数	S. R.			N. 白血球核分葉數 (觀察細胞100)						白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮狀態	體重
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V	平均核數	N	L	M	E	B		
6/8	初回前	63	82	121	56	28	16	0		1.60	87	13				-	40kg
3/9	4N.F	45	80	120	52	35	12	1		1.62						+	43 "
2/10	8N.F	41	77	127	51	31	14	4		1.71	72	27	1			++	43 "
2/11	12N.F	12	32	100	20	55	23	2		2.07	67.5	28	1	3.5		++	43.5 "
1/12	16N.F	14	35	120	22	49	26	3		2.10	81	13.5	4.5	1		+++	43.5 "
20/1	23N.F	7	18	78	19	49	28	3	1	2.18	78.5	18.5	1.5	1.5		+++	44 "
17/2	27N.F	7	20	79	20	42	32	6		2.24	57	33	6	4		+++	43 "

(3) 島田某 24歳 (♀) 無職。
 初診 昭和11年7月21日。
 診断 右肺上葉浸潤。
 家族歴 ナシ。
 既往症 1年前肋膜炎及ビ肺尖結核。
 現病歴 數日來左胸部ノ疼痛ヲ訴フ。
 初診時理學の所見 ナシ。
 レントゲン所見 右肺上葉全體ニ擴マレル大理石紋樣ノ軟陰翳ニシテ鎖骨下ニ徑3cm大ノ空洞ヲ有ス。
 ガフキー0號。マントー氏反應、8×8cm。
 右肺萎縮狀態經過 肋膜癒着 ナク 完全氣胸ヲ形成

ス。補充注入18回ニシテ極度ニ萎縮(卅)。
 S.R.ハ萎縮ト共ニ遲延スレドモ18回補充時以後ハ時ニ速進、時ニ遲延シ正常數ニ達スルコトナシ。
 平均核數 右方移動ヲ認ム。
 白血球百分率 著明ナル變化ヲ認メズ。
 觀察期間14ヶ月、氣胸中止シ右肺ヲ擴張セシメ寫眞撮影ノ結果最初ノ軟陰翳ハ全ク纖維狀又ハ索狀像トナリ癩痕化ス。
 體溫 平溫。
 體重 50.5kgヨリ46.5kgトナリ4kgノ減少ヲ示ス

第3表 島田某 24歳 (♀)

日 月	氣胸 回数	S. R.			N. 白血球核分葉數 (觀察細胞100)					平均 核數	白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮狀態	體 重
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V		N	L	M	E	B		
23/7	初回前	65	101	133	46	30	20	3	1	1.83	61	33.5	4	1.5	—	50.5 kg	
20/8	4 N.F	35	78	120	35	52	11	2		1.80	53	26	15.5	5.5	+	49.5 "	
24/9	9 "	32	70	114	24	60	11	5		1.97	88.5	8	1	2.5	++	49 "	
23/10	13 "	30	59	120	22	51	20	7		2.12	67.5	21	6.5	5	++	48.5 "	
24/11	16 "	27	50	120	23	44	24	9		2.19	78	12	8	2	+++	48 "	
14/12	18 "	32	41	120	26	42	30	2		2.08	71.5	16	2	10.5	+++	47 "	
8/1	20 "	24	50	121	24	50	17	8	1	2.12	73.5	16.5	4	6	"	47 "	
4/2	22 "	38	70	129	19	46	27	7	1	2.25	78	15	5	2	"	45.5 "	
4/3	24 "	14	44	114	18	60	15	5	2	2.13	56	26.6	8	9.5	"	45.5 "	
9/4	26 "	15	38	105	23	41	29	7		2.20	62	25	11	2	"	45.5 "	
6/5	28 "	32	65	120	26	55	13	6		1.99	58	32.5	4	5.5	"	46 "	
15/6	30 "	30	69	115	20	56	22	2		2.06	64	32	1	3	"	46 "	
16/7	32 "	40	75	117	20	52	23	4	1	2.14	66	20	10	4	"	44 "	
14/8	34 "	33	66	95	34	52	10	2	2	1.86	78	15	4.5	2.5	"	45 "	
7/10	38 "	16	43	105	18	50	25	7		2.21	62	32	3	3	"	46.5 "	

(4) 荒木某 16歳 (♂) 學生。
 初診 昭和11年8月11日。
 診断 肺浸潤。
 家族歴 4年前兄肺結核ニ罹患ス。
 既往症 ナシ。
 現病歴 右腋窩淋巴腺腫脹。
 初診時理學の所見 特記スベキモノナシ。
 レントゲン所見 右肺上葉浸潤及左肺尖結核ニシテ右浸潤ノ懸雲狀ノ軟翳、シカモ上葉下外側ニ空洞(徑3cm大)ヲ認ム。左肺尖ノ陰翳ハ既ニ石灰化セリ。
 ガフキー0號。マントー氏反應 3×5cm。
 右肺萎縮狀態經過 肺尖部ニ索狀癒着ヲ認メ第30回補充注入後モ幅2横指大ノ透明帶ヲ認ムルノミニシテ

Brunner⁽⁴⁾氏ノ被覆氣胸(Mantel-Pneumothorax)ニ相等スルモノト考ヘラル。

現在氣胸療法繼續中ナルモ萎縮狀態ハ輕度ナリ。
 S.R.及ビ平均核數ハ補充注入21回時ニ漸ク正常値トナリソノ後約10ヶ月間ノ觀察ニ於テハ時ニ多少ノ變動アリシモ大體正常値ニ一致シ氣胸前ノ如キコトハナカリキ。

白血球百分率ニ就テハ著變ヲ見ズ。
 觀察期間15ヶ月 現在氣胸療法續行中。
 體溫 變化ナシ。
 體重ハ氣胸前52kg, 15ヶ月後56kgトナリ4kg増加一般狀態可良ナリ。

第 4 表 荒 木 某 16 歳 (♂)

日 月	氣 胸 回 數	S. R			N. 白血球核分葉數 (觀察細胞 100)						白血球百分率 (觀察細胞 200)					萎縮狀態	體 重
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V	平均 核數	N	L	M	E	B		
13/ 8	初回前	54	83	115	33	55	10	2		1.81	64.5	21	7.5	7		—	52 kg
9/ 9	4 N.F	48	74	113	35	50	13	1	1	1.83						+	51 "
9/10	8 "	27	53	103	24	51	22	3		2.04	69	18	13			+	53 "
6/11	12 "	30	55	107	20	50	28	2		2.12	69.5	17.5	10.5	2.5		+	54.5 "
4/12	16 "	14	37	95	14	58	23	5		2.19	70.5	15	11	3.5		+	54 "
14/ 1	21 "	5	25	92	15	48	29	8		2.30	75	18	3	4		+	54 "
17/ 2	26 "	10	30	94	16	45	35	2	2	2.29	58	33	6	3		+	53.5 "
11/ 3	28 "	5	14	79	14	40	40	6		2.38	51	38.5	3.5	7		+	54.5 "
14/ 4	31 "	6	21	72	17	39	42	2		2.29	60	23	5	12		+	55 "
13/ V	35 "	15	41	93	18	50	30	2		2.16	47	13	9	31		+	54.5 "
8/ 7	43 "	20	45	90	20	55	19	5	1	2.12	69.5	18	6.5	6		+	54.5 "
7/ 8	47 "	13	36	100	12	50	35	3		2.29	62	30	2	6		+	54 "
9/ 9	52 "	12	31	83	11	56	28	4	1	2.28	58	27	6	9		+	53.5 "
7/10	56 "	10	30	76	6	60	29	5		2.33	72	13	14	1		+	53 "
5/11	60 "	8	22	75	8	58	32	2		2.28	56.5	26.5	10	7		+	55 "
2/12	64 "	6	20	78	14	52	29	5		2.25	73	13.5	13	0.5		+	56 "

(5) 今井某 22歳 (♂) 店員。

初診 昭和11年8月29日。

診斷 左肺浸潤。

家族歴 ナシ。

既往症 左側滲出性肋膜炎。

現病歴 10日來咯痰及ビ盜汗。

初診時理學的所見 ナシ。

レントゲン所見 左肺中野外側ニ近ク3cm程度ノ境界不鮮明ナル軟翳ナリ。

ガフキー0號。マントー氏反應 3×6cm。

左肺萎縮狀態經過。完全氣胸ヲ形成シ補充注入4回ニシテ萎縮セルヲ認メ18回補充時ニ於テハ極度ニ萎縮

第 5 表 今 井 某 22 歳 (♂)

日 月	氣 胸 回 數	S. R			N. 白血球核分葉數 (觀察細胞 100)						白血球百分率 (觀察細胞 200)					萎縮狀態	體 重
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V	平均 核數	N	L	M	E	B		
1/ 9	初回前	6	18	68	32	45	20	3		1.94	68	28	2	2		—	55 kg
29/ 9	4 N.F	2	17	72	30	50	18	2		1.92	59.5	28	5	7.5		+	56 "
27/10	8 "	2	5	50	15	48	30	7		2.29	64.5	24.5	2.5	8.5		++	56.5 "
26/11	12 "	2	4	44	12	43	36	8	1	2.43	50	32	4	14		+++	56 "
17/12	15 "	3	13	63	10	54	29	7		2.33	56.5	35	4.5	4		+++	57 "
20/ 1	18 "	2	4	55	12	48	36	4		2.32	65	29	4	2		+++	56.5 "
16/ 2	20 "	2	5	50	16	40	33	11		2.39	41.5	48.5	4.5	5.5		"	57 "
19/ 3	22 "	2	3	43	12	42	39	7		2.41	62	27	5	6		"	57.5 "
23/ 4	24 "	3	7	55	8	53	34	5		2.36	62.5	20.5	6	11		"	59 "
25/ 5	26 "	4	10	67	10	46	37	7		2.41	50.5	33.5	8	8		"	58 "
16/ 6	27 "	12	32	85	6	50	39	5		2.43						"	58 "
20/ 7	29 "	20	52	92	16	58	26			2.10	64.5	28	3.5	4		"	57 "
31/ 8	31 "	8	20	72	16	51	29	4		2.21	61	26	2	11		"	57 "

セルヲ認ム(卅).

S.R.及平均核數ハ氣胸前ヨリ正常値ニ近キモ氣胸回數ヲ重ナルニ從ヒS.R.ハ遲延シ平均核數ハ右方移動ス.

白血球百分率ニ於テハ著明ナル變動ヲ見ザルモ白血球多少増加セリ.

觀察期間12ヶ月後チ來所セズ. 體溫ニ變化ナク體重ハ56kgヨリ59kgトナリ3kg増加ス. 主訴消失ス.

(6) 根上某 19歳 (♂) 店員.

初診 昭和11年9月26日.

診斷 左肺上葉浸潤.

家族歴及既往症ナシ.

現病歴 本年8月來咳嗽, 喀痰, 盜汗及輕熱有リ.

初診時理學の所見 打診上, 左側肺尖部ヨリ第3肋

間マデ輕濁音ヲ呈シ該濁音界ニ於テ少許ノ小水泡音ヲ聽取ス.

レントゲン所見 左肺尖部ヨリ上葉全體ニ擴マレル大理石紋様ノ軟弱ナリ.

ガフキー0號. マントー氏反應 2×2cm.

左肺萎縮狀態經過 完全氣胸ヲ形成シ19回補充注入ニヨリ高度ニ萎縮ス(卅).

7月下旬第35回補充後ヨリ少許ノ滲出液ヲ見約2ヶ月ニシテ吸收サル. コノ滲出液ノ出現ノ時期ヲ除外スレバS.R.及ビ平均核數ハヨク萎縮狀態ニ一致シテ正常値ニ至ル.

白血球百分率ニ就テハ著變ナシ.

觀察期間15ヶ月 現在氣胸療法繼續中.

體溫體重ニ著變ナク主訴ハ消失ス.

第6表 根上某 19歳 (♂)

日 月	氣胸 回数	S. R			N. 白血球核分葉數 (觀察細胞100)					平均 核數	白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮 狀態	滲出 液	體重
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V		N	L	M	E	B			
28/9	初回前	53	79	114	56	35	9			1.53	72	26	2			—	—	43 kg
30/10	5 N.F	15	36	93	28	55	14	3		1.92	69	24.5	6	0.5		++	—	43 "
27/11	9 "	10	27	82	19	52	24	5		2.15	72	18.5	8	1.5		++	—	44 "
18/12	12 "	6	20	80	20	50	25	5		2.15	89.5	8	2.5			"	—	43.5 "
15/2	15 "	8	22	81	19	46	28	7		2.23	88.5	8	2.5	1		"	—	44 "
23/3	19 "	3	9	54	14	49	33	4		2.27	72	20	2	6		+++	—	44 "
22/4	22 "	3	8	52	19	46	29	6		2.22	78	17.5	3	1.5		"	—	42 "
19/5	24 "	3	7	54	22	40	29	9		2.25	70.5	20	6	3.5		"	—	41.5 "
17/6	30 "	2	7	53	20	45	27	8		2.23	68.5	24	6.5	1		"	—	41 "
22/7	35 "	8	22	74	18	45	37			2.19	86	12	2			"	—	39 "
19/8	39 "	49	80	115	24	50	22	4		2.06	64.5	33.5	1	1		"	+	37 "
30/9	42 "	5	14	74	17	45	32	5	1	2.28	62.5	32.5	2	3		"	—	38.5 "
2/11	45 "	3	8	70	18	41	35	5	1	2.30	60	31.5	7.5	1		"	—	41.5 "
16/12	49 "	2	5	38	26	35	37	2		2.15	74.5	19	6.5			"	—	43.5 "

(7) 谷口某 19歳 (♂) 農業.

初診 昭和11年9月28日.

診斷 左鎖骨下浸潤及ビ右肋膜肥厚.

家族歴 ナシ.

既往症 昨年右滲出性肋膜炎.

現病歴 20日來左胸部不快感, 咳嗽, 喀痰ヲ訴フ.

初診時理學の所見 右側下部ハ濁音ヲ呈シ該濁音界ニ於テ呼吸音微弱ナリ.

レントゲン所見 左鎖骨下ニ境界不鮮明ノ徑約3cm

大ノ小浸潤ヲ認ム. 右肋膜肥厚ヲ認ム.

ガフキー0號. マントー氏反應 3.5×5.0cm.

左肺萎縮狀態經過 肋膜癒着 ナク完全氣胸ヲ形成シ, 補充注入17回總送氣量7,000ccニシテ萎縮狀態(卅).

S.R.及平均核數モ漸次良好トナリ, 18回補充後ヨリハ時ニ萎縮狀態ニ一致セズシテS.R.ノ速進及ビ平均核數ノ左方移動ヲ認ムレドモ, 40回補充時頃ヨリハソレゾレ正常數ヲ保ツニ至ル.

白血球百分率ニ就テハ著變ナシ.

觀察期間14ヶ月, 主訴全ク消失シ現在氣胸療法繼續

中、體溫=變化ナク 體重ハ 初診時 48.5kg 44回補充時 54kg 即チ 5.5kg ノ増加ヲ示ス。

第 7 表 谷 口 某 19 歲 (♂)

日 月	氣 胸 回 數	S. R			N. 白血球核分葉數 (觀察細胞100)						白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮狀態	體 重
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V	平均 核數	N	L	M	E	B		
9/10	初回前	35	60	112	41	36	12	11		1.93	68	16	12	4		-	48.5 kg
10/11	4 N.F	17	44	107	29	43	19	8	1	2.09	71	9.5	11.5	8		+	50 "
8/12	8 "	16	45	105	33	34	26	7		2.07	72	17	9	2		+	51 "
13/ 1	13 "	35	67	120	34	41	13	11	1	2.04	75	14	5	6		++	50 "
10/ 2	17 "	18	49	110	25	39	29	7		2.18	82.5	15	1	1.5		+++	49.5 "
11/ 3	21 "	21	48	110	28	38	28	6		2.12	76.5	21.5	1	1		+++	50 "
7/ 4	23 "	17	48	98	30	41	22	7		2.06	79	15.5	2.5	3		"	49.5 "
11/ 5	26 "	30	74	120	22	44	27	7		2.19	78	11.5	9	1.5		"	49 "
10/ 6	29 "	26	56	109	28	47	20	4	1	2.03	78.5	9.5	8	4		"	49 "
13/ 7	32 "	28	63	110	29	50	19	2		1.94	82	12	4	2		"	48 "
14/ 8	35 "	39	66	110	27	50	17	6		2.02	68.5	23	6	2.5		"	48 "
14/ 9	38 "	15	40	85	24	38	35	3		2.17	83	14.5		2.5		"	50 "
7/10	40 "	8	23	81	25	35	34	6		2.21	65	29	5	1		"	51 "
5/11	42 "	8	21	73	27	38	31	4		2.12	73	13.5	13	0.5		"	53.5 "
1/12	44 "	7	26	99	24	44	26	5	1	2.15	71.5	25	2.5	1		"	54 "

(8) 山田某 43歲 (♀) 農業。

既往症ナシ。

初診 昭和11年10月12日'

現病歴 1年前ヨリ 前胸部疼痛アリ、現在食慾不

診斷 左肺上葉浸潤。

振、咳嗽、咯痰、盜汗、全身倦怠感ヲ訴フ。

家族歴 母ハ15年前肺結核ニテ死亡ス。

初診時理學の所見 ナシ。

第 8 表 山 田 某 43 歲 (♀)

日 月	氣 胸 回 數	S. R			N. 白血球核分葉數 (觀察細胞100)						白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮狀態	體 重
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V	平均 核數	N	L	M	E	B		
23/10	初回前	30	61	115	43	37	19	1		1.78	79	11	3.5	6.5		-	39 kg
26/11	7 N.F	27	59	119	30	50	15	4	1	1.96	80	5	3.5	11.5		+	41.5 "
17/12	10 "	30	60	119	26	56	10	8		2.00	80.5	13	3.5	3.0		+	41.5 "
13/ 1	13 "	22	55	116	20	50	25	4	1	2.16	78.5	14	1	6.5		+	42 "
9/ 2	17 "	29	70	116	25	40	27	7	1	2.19	76.5	15.5	1.5	6.5		++	42 "
10/ 3	21 "	20	53	115	20	50	22	8		2.18	85	12	0.5	2.5		++	42 "
7/ 4	23 "	26	55	113	22	48	27	3		2.11	78.5	9	5.5	7		++	43 "
5/ 5	27 "	37	79	118	15	56	25	2	2	2.20	64.5	10	9	16.5		"	42.5 "
3/ 6	30 "	27	65	113	19	48	26	5	2	2.23	65.5	16.5	7	11		"	42.5 "
9/ 7	33 "	40	72	108	18	50	28	4		2.18	61	21.5	3	14.5		"	42 "
7/ 8	36 "	25	55	100	20	64	13	3		1.99	58.5	31	4.5	6.0		"	41 "
7/ 9	39 "	35	75	116	18	52	27	3		2.15	64	23.5	6.5	6.0		"	42 "
7/10	42 "	21	53	110	12	58	27	3		2.21	57.5	26.5	7.5	8.5		"	42 "
2/12	46 "	37	75	115	18	66	14	2		2.00	76.5	20		3.5		"	42 "

レントゲン所見 左鎖骨部ヨリ上葉上1/2ニ亘ル軟陰翳ナリ。

ガフキー0號。マントー氏反應 2.5×2.5cm。

左肺萎縮状態經過 初回氣胸 190ccニヨリ左肺ハ肺尖部ニ索状態着ヲ認メナガテモ萎縮程度(+)ナルヲ認ム。ソノ後ハ徐々ニ萎縮セルヲ見, 17回補充時ニハ(++)ニ萎縮シタリ。索状態着ハ自然剝離セリ。

S.R.ハ最初肺萎縮進展ト共ニ遲延セルモ27回補充時頃ヨリ時ニ速進, 時ニ遲延セリ。

平均核數ハ最初肺萎縮進展ト共ニ可良トナリ右方移動ス, ソノ後ハ36回時ノ1.99ヲ除キテハ孰レモ2.00—2.23ノ間ニアリ。

白血球百分率ニ就テハ著變ヲ認メズ。

滲出液 7回補充時頃ニ左側ニ邊緣滲出液ヲ見シモ約3週間ニシテ消失ス。而シテ何等血液性狀ニ影響セザリシ事ヨリ推シテ考ヘレバコノ滲出液ハ氣胸刺戟ニヨルモノナラン。

觀察期間 13ヶ月, 現在氣胸療法繼續中。

一般状態可良トナリ 現病歴主訴ハ消失シ, 體重ハ39kgヨリ42kgトナリ3kgノ増加ヲ示ス。

(9) 門村某 21歲 (♂) 理髮職。

初診 昭和11年10月23日。

診斷 右肺上葉浸潤。

家族歴 ナシ。

既往症 昨年11月赤痢ニ罹患ス。

現病歴 今年7月來咳嗽アリ 3回ノ咯血アリタリト。

初診時理學の所見 ナシ。

レントゲン所見 右上葉稍ヤ廣汎ニ亘リ増殖性變化ニ傾ケル翳像ナリ。

ガフキー0號。マントー氏反應 10.5×5.5cm。

右肺萎縮状態經過 肋膜癒着ナク完全氣胸ヲ形成シ30回補充注入ニヨリ右肺ハ幅一橫指大トナリ極度ニ萎縮セルヲ(卅)。總送氣量12,700ccナリキ。S.R.及ビ平均核數時ニ萎縮状態ニ一致セズシテ遲速或ハ増減アレドモ略ボ正常數ヲ保テリ。

白血球百分率ニ就テハ著變ナシ。

觀察期間14ヶ月, 現在氣胸療法繼續中ナルモ近々中止セントス。主訴消失ス。

體温ハ平温, 體重ハ50kgヨリ54kgトナリ4kgノ増加ヲ示ス。

第 9 表 門 村 某 21歲 (♂)

日 月	氣 胸 回 數	S. R			N. 白血球核分葉數 (觀察細胞100)						白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮狀態	體 重
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V	平均 核數	N	L	M	E	B		
30/10	1 N.F	8	21	78	21	45	24	8	2	2.25	74.5	13	3	9.5		—	50 kg
27/11	5 "	4	9	66	23	54	15	6	2	2.10	60	19.5	9.5	11		+	50.5 "
18/12	8 "	10	26	81	16	47	27	10		2.31	66	27.5	2.5	4		++	51.5 "
14/ 1	11 "	5	23	85	19	36	38	6	1	2.34	65.5	19.5	1.5	13.5		++	50 "
10/ 2	15 "	13	29	94	25	48	18	9		2.11	64	28.5	3	4.5		+++	50 "
10/ 3	19 "	4	9	61	22	48	15	12	3	2.26	71	16	3.5	9.5		+++	51 "
14/ 4	22 "	18	47	89	13	60	21	5	1	2.21	79	7.5	4.5	9		+++	50 "
13/ 5	26 "	15	40	88	15	48	33	4		2.26	66.5	18.5	4.5	10.5		+++	50 "
16/ 6	30 "	14	43	86	17	50	24	7	2	2.27	60	26.5	4.0	9.5		卅	49.5 "
8/ 7	33 "	28	50	88	20	58	18	4		2.06	56	33	3	8		"	50 "
7/ 8	37 "	9	25	60	15	60	19	5	1	2.17	65	17	4	14		"	49.5 "
7/ 9	40 "	7	20	60	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	"	51.5 "
28/10	44 "	6	20	63	19	45	25	8	3	2.31	51.5	35	4.5	9		"	52 "
28/11	46 "	3	8	60	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	"	52 "
23/12	48 "	5	15	47	16	50	26	6	2	2.28	65.5	22.5	4	8		"	54 "

(10) 吉島某 25歲 (♂) 學生。

初診 昭和12年2月16日。

診斷 右肺浸潤並ニ左側肋膜肥厚。

家族歴 母ハ肺結核ニ罹患中。

既往症 1年前=左側滲出性肋膜炎。
 現病歴 1年來左胸部疼痛，咳嗽，咯痰，盜汗ヲ訴フ。
 初診時理學的所見 左側下部呼吸音微弱ニシテ濁音ヲ呈ス。
 レントゲン所見 右側中野外側=境界稍ヤ不鮮明ナル徑2cm程度ノ小圓形軟陰翳像アリ。左側肋膜肥厚ヲ認ム。
 ガフキー0號。マントー氏反應 4×6cm。

右肺萎縮狀態經過 肋膜癒着ナク完全氣胸ヲ形成ス
 レドモ補充注入20回時ト雖モ萎縮狀態ハ輕度ナリ(+)
 S.R.及平均核數 正常數ヲ保チ大ナル變動ヲ見ズ。
 白血球百分率 Nノ減少L及Eノ増加ヲ認ム。
 觀察期間 5ヶ月，來所セザルニ至ル。
 主訴 左胸部輕度疼痛ヲ除キ消失ス。
 體溫 平溫。
 體重 54kgヨリ52kgトナリ2kgノ減少ヲ示ス。

第10表 吉島某 25歲 (♂)

日 月	氣胸 回數	S. R			N.白血球核分葉數 (觀察細胞100)							白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮狀態	體重
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V	平均核數	N	L	M	E	B			
9/3	初回前	3	7	56	16	54	20	9	1	2.25	73	13	3	11		-	54 kg	
7/4	4 N.F	4	10	66	20	57	12	10	1	2.15	64	26.5	2.5	7		+	54 kg	
4/5	8 "	4	10	57	12	48	32	6	2	2.38	51.5	25	4	19.5		+	54 "	
2/6	12 "	5	14	76	18	48	30	4		2.20	70	12.5	2	15.5		+	53.5 "	
6/7	16 "	3	8	60	20	40	35	5		2.25	43.5	50	2	4.5		+	54 "	
7/8	20 "	14	30	85	14	62	18	6		2.16	49	34	2	15		+	52 "	

(11) 東某 26歲 (♂) 仕立職人。
 初診 昭和12年3月5日。
 診斷 左肺上葉浸潤。
 家族歴，既往症 共ニナシ。
 現病歴 1昨日ヨリ血痰，咳嗽，盜汗，食慾不振ヲ訴フ。
 初診時理學的所見 左背上部ニ少許ノ小水泡音ヲ聽

取ス。
 レントゲン所見 左肺上葉ハ肺尖部ヨリ大理石紋様ノ軟陰翳ヲ以テ被ハル。
 ガフキー0號。マントー氏反應 4×4cm。
 左肺萎縮狀態經過 左肺尖部ニ終始索狀癒着ヲ認メシモ補充注入17回ニシテ高度ニ萎縮ス(++)
 S.R.ハ萎縮進展ト共ニ正常數マデ遲延スレドモ再ビ

第11表 東某 26歲 (♂)

日 月	氣胸 回數	S. R			N.白血球核分葉數 (觀察細胞100)							白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮狀態	體重
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V	平均核數	N	L	M	E	B			
9/3	初回前	22	47	103	27	57	16			1.89	85	6.5	7.5	1		-	49 kg	
7/4	4 N.F	10	28	85	18	49	28	5		2.20	60.5	33.5	1.5	4.5		+	52.5 "	
4/5	8 "	4	12	64	16	52	29	3		2.19	69.5	12	11.5	7		++	55 "	
2/6	12 "	8	29	78	23	54	21	2		2.02	77.5	7	11	4.5		"	57.5 "	
8/7	17 "	17	40	76	13	61	23	3		2.26	54.5	36.5	7	2		+++	58.5 "	
10/8	22 "	25	50	98	10	61	26	3		2.12	72	23.5	2	2.5		"	60 "	
9/9	26 "	20	44	92	14	49	34	3		2.26	44	47.5	2	6.5		"	59 "	
7/10	30 "	23	49	99	10	60	30			2.20	66	21	7	6		"	57 "	
5/11	34 "	20	45	93	13	55	29	3		2.22	51	38	8	3		"	57.5 "	
2/12	38 "	3	12	88	5	66	26	3		2.27	66	30.5	3.5			"	58 "	

速進, ノチ再ビ遅延ス, 平均核數ハ4回補充時ヨリ正常數トナル. 白血球百分率ニ就テハNノ減少I.及ビEノ増加ヲ示ス.

觀察期間9ヶ月以後來所セズ.

主訴ハ消失ス.

體溫ハ平溫, 體重ハ異常ナル増加ヲ示ス即チ49kgヨリ58kg即チ9kgノ増加ナリ.

(12) 安村某 16歲 (♀) 女學生.

初診 昭和12年3月12日.

診斷 左肺上葉浸潤.

家族歴 ナシ.

既往症 昨年肺結核ニ罹患ス.

現病歴 1ヶ月前ヨリ咳嗽ヲ訴フ.

初診時理學の所見 ナシ.

レントゲン所見 左肺尖部ヨリ上野ニ亘ル滲増混合

型ノ陰翳アリ.

ガフキー0號. マントー氏反應 3×4cm.

左肺萎縮狀態經過 觀察期間1ヶ月ニシテ來所セザルニ至リシ爲メ充分ナル肺萎縮ヲ來スコト不可能ナリシモ補充注入4回ニシテ既ニ萎縮狀態中等度(++)、肋膜癒着ナク完全氣胸ヲ形成ス.

S.R. 萎縮進展ト共ニ良好トナリタルコトヨリ考フレバ爾後ノ送氣ニ依ル萎縮狀態ノ進展ト共ニ正常數マデ遅延ヲ豫想ス.

平均核數 右方移動ス.

白血球百分率 Nノ減少, Mノ増加ヲミル.

體溫 平溫.

體重 不變.

主訴 消失ス.

第12表 安村某 16歲 (♀)

日 月	氣胸 回数	S. R			N. 白血球核分葉數 (觀察細胞100)						白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮狀態	體重
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V	平均核數	N	L	M	E	B		
16/3	初回前	27	54	119	27	48	23	2		2.00	85	7.5	5	2.5		—	45 kg
14/4	4 N.F	16	50	106	18	59	15	8		2.13	78	6	14	2		++	〃

(13) 浪花某 23歲 (♀) 店員.

初診 昭和12年4月23日.

診斷 右肺上葉浸潤.

家族歴 ナシ.

既往症 1昨年右側肺尖結核.

現病歴 1週間以來咳嗽, 咯痰ヲ訴フ.

初診時理學の所見 ナシ.

レントゲン所見 右側鎖骨下ニ於ケル鷄卵大ノ邊縁不鮮明ナル軟陰翳ナリ.

ガフキー0號. マントー氏反應 1.5×2.0cm.

右肺萎縮狀態經過 肋膜癒着ナク完全氣胸ヲ形成ス. 補充注入8回, 總送氣量 3,000ccニヨリ右肺ハ高

第13表 浪花某 23歲 (♀)

日 月	氣胸 回数	S. R			N. 白血球核分葉數 (觀察細胞100)						白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮狀態	體重
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V	平均核數	N	L	M	E	B		
26/4	初回前	18	38	104	36	52	8	4		1.80	50	14	6	30		—	50.5 kg
1/6	5 N.F	6	18	82	25	54	14	7		2.03	44	41	7	8		+	51 〃
6/7	10 〃	8	22	75	30	50	12	8		1.98						++	50.5 〃
5/8	14 〃	8	20	92	27	59	9	5		1.92	58.5	35.5	2.5	3.5		+++	47 〃
8/9	19 〃	6	19	85	18	64	16	1	1	2.03	61	37		2		〃	46 〃
6/10	23 〃	5	16	78	34	43	16	7		1.96	57.5	31.5	6.5	4.5		〃	46 〃
4/11	27 〃	5	16	75	23	49	20	7	1	2.14	55	38	6.5	0.5		〃	44.5 〃
1/12	31 〃	4	12	70	15	60	21	4		2.14	72	22	4	2		〃	44.5 〃
13/1	37 〃	7	23	81	16	53	26	5		2.20	58	30.5	8.5	3		〃	44.5 〃
10/2	40 〃	4	9	79	25	45	24	5	1	2.12	68	19.5	12.5			〃	46 〃

度ニ萎縮ス(卅).

S.R.ハ5回補充時ヨリ正常數トナリ,平均核數亦漸次右方移動ヲ示ス.

白血球百分率 Lノ増加, Eノ減少ヲ示ス.

觀察期間9ヶ月,現在氣胸療法繼續中.主訴消失ス.

體温 平温.

體重 50.5kgヨリ46kgニ減少セルモ目下再ビ増加ノ傾向ヲ示ス.

(14) 小島某 21歳 (♂) 店員.

初診 昭和12年5月12日.

診斷 左肺上葉浸潤.

家族歴 今年5月4日兄肺結核ニテ死亡ス.

既往症 ナシ.

現病歴 10日來咳嗽ヲ訴フ.

初診時理學の所見 ナシ.

レントゲン所見 左鎖骨下部ニ鶏卵大ノ空洞ヲ有スル上葉全體ニ擴マレル軟弱ナリ.

ガフキー10號. マントー氏反應 3×4cm.

左肺萎縮狀態經過 肋膜癒着ナク完全氣胸ヲ形成ス.補充注入8回ニヨリ萎縮狀態ハ高度(卅)ナリ.

S.R.及ビ平均核數 萎縮狀態ニ並行シテ遲延及ビ右方移動シ正常數ヲ示ス.

白血球百分率 Eノ増加ヲ示ス.

觀察期間3ヶ月ニシテ來所セズ.

主訴全ク消失シガフキー0號トナル.

體温 平温トナル.

體重 56kgヨリ53kgトナリ3kgノ減少ヲ示ス.

第14表 小島某 21歳 (♂)

日 月	氣胸 回数	S. R			N.白血球核分葉數 (觀察細胞100)						白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮狀態	體重
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V	平均核數	N	L	M	E	B		
12/5	初回前	50	99	147	34	58	7	1		1.75	62	24.5	13.5			—	56 kg
9/6	4 N.F	20	55	129	23	50	24	2	1	2.08	55	34	10	1		卅	55 "
6/7	8 "	9	28	112	17	58	21	4		2.12	54	3	41	2		卅	54 "
4/8	12 "	8	22	107	19	54	25	2		2.10	57.5	36.5	1	5		卅	53 "

(15) 才川某 18歳 (♂) 無職.

初診 昭和12年4月30日.

診斷 左肺浸潤.

家族歴, 既往症 ナシ.

現病歴 今年2月來咳嗽, 喀痰アリト.

初診時理學の所見 左側前胸部輕濁音ヲ呈シ中水泡音多數聽取ス.同側背面モ同様ナリ.

レントゲン所見 左肺全葉ニ互ル懸雲狀ノ軟陰翳ナリ.

ガフキー10號 マントー氏反應 2.2×2.2cm.

第15表 才川某 18歳 (♂)

日 月	氣胸 回数	S. R			N.白血球核分葉數 (觀察細胞100)						白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮 狀態	體重
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V	平均核數	N	L	M	E	B		
19/5	初回前	88	120	137	48	40	10	2		1.66	80.5	9	6.5	4		—	50.5 kg
16/6	5 N.F	75	110	131	36	42	21	1		1.87						卅	49 "
14/7	9 "	56	93	130	34	46	18	2		1.88	80	14	4	2		卅	48.5 "
12/8	13 "	36	67	112	23	39	35	3		2.18	69	23.5	6	1.5		"	48 "
14/9	18 "	29	56	108	25	41	31	3		2.12	68	24	7	1		"	47 "
26/10	22 "	18	47	100	25	46	24	5		2.09	64.5	33.5	0.5	1.5		"	48 "
26/11	25 "	20	45	102												"	49 "
16/12	27 "	23	58	107	31	52	16	1		1.87	74	15.5	10	0.5		"	49 "
8/1	30 "	24	59	106	26	54	19	1		1.95	52	40	8			"	50 "

左肺萎縮状態經過 肋膜癒着 ナク 完全氣胸ヲ形成ス。補充注入9回總送氣量 4,000cc ニシテ 高度萎縮(卅)ヲ示ス。

S.R. 及ビ平均核數 萎縮進展ニヨク一致シ遲延及ビ右方移動ヲ示セドモ S.R. ハ未ダ正常數ニ達セズ。

白血球百分率 Nノ減少 Lノ増加ヲ示ス。

觀察期間 8ヶ月。現在氣胸療法繼續中。

主訴消失シ、ガフキー0號トナル。

體温ハ平温。體重ハ 50.5kg ヨリ 50kg トナリ 0.5kg ノ減少。

(16) 加納某 32歲 (♂) 會社員。

初診 昭和12年 5月 14日。

診斷 兩側肺上葉浸潤 (左肺偏側氣胸)。

家族歴及既往症 ナシ。

現病歴 昨年末ヨリ肺門腫脹トシテ醫療ヲ受ク。

現在盜汗ヲ訴フ。

初診時理學の所見 ナシ。

レントゲン所見 左側ノ浸潤ハ滲、増混合型ニシテ範圍ハ肺尖部ヨリ鎖骨下2横指程度。右側浸潤ハ石灰沈着數個ヲ有シ増殖性ノモノニシテ範圍ハ肺尖部ヨリ鎖骨部ニ至ル。

ガフキー0號。マントー氏反應 3×5cm。

左肺萎縮状態經過 肺尖部ニ 2條ノ索状癒着アリテ始メ容易ニ萎縮セザリシモ補充回数24回總送氣量 10,000cc ニテ高度ニ萎縮ス(卅)。

S.R. 及平均核數 最初ヨリ正常數ヲ保ツ。

白血球百分率 Nノ減少 Lノ増加ヲ認ム。

觀察期間 8ヶ月、現在 氣胸療法繼續中。主訴消失ス。

體温 平温。

體重 52kg ヨリ 57kg トナリ 5kg ノ増加ヲ示ス。

第16表 加納某 23歲 (♂)

日 月	氣胸 回数	S. R			N. 白血球核分葉數 (觀察細胞100)						白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮 状態	體重
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V	平均 核數	N	L	M	E	B		
9/ 6	初回前	2	5	44	20	52	21	7		2.15	84	12	2	2		-	52 kg
14/ 7	5 N.F	4	11	70	14	55	25	5	1	2.24	84.5	5.5	1.5	8.5		+	54.5 "
10/ 8	9 N.F	4	7	55	15	45	32	6	2	2.35	79	10	3	8		+	53 "
7/ 9	13 "	6	14	63	22	45	29	4		2.15	55.5	41.5	0.5	2.5		+	54.5 "
6/10	17 "	2	6	48	26	40	20	14		2.22	68	19	11	2		+	55.5 "
4/11	20 "	2	5	45	17	53	25	4	1	2.19	52.5	41	5.5	1		++	55.5 "
1/12	24 "	3	5	41	25	51	17	7		2.06	61	34	5			卅	56.5 "
13/ 1	30 "	1	3	20	18	38	42	2		2.28	58	34.5	5.5	2		"	56.5 "
9/ 2	34 "	3	9	44	21	47	30	2		2.13	80.5	16.5	2	1		"	57 "

(17) 越島某 17歲 (♂) 學生。

初診 昭和12年 6月 2日。

診斷 左肺浸潤。

家族歴、既往症 共ニナシ。

現病歴 健康診斷ヲ希望ス。

初診時理學の所見 ナシ。

レントゲン所見 左肺中野ニ於テ肺門部ヨリ少シク離レテ徑4cm大ノ不整形ノ軟陰翳ナリ。

ガフキー0號。マントー氏反應 3×2cm。

左肺萎縮状態經過 肋膜癒着 ナク 完全氣胸ヲ形成ス。補充注入21回ニシテ高度ニ萎縮ス(卅)。

S.R. 萎縮進展ニ伴フテ時ニ遲延スレドモ再ビ速進シ後チ遲延ス。

平均核數 右方移動スレドモ後チ左方移動シ再ビ右方移動ス。

白血球百分率 著變ナシ。

觀察期間 6ヶ月。現在氣胸療法繼續中。

體温 最初ヨリ平温。

體重 59.5kg ヨリ 60kg トナリ 0.5kg ノ増加ヲ示ス。

(18) 福島某 20歲 (♂) 店員。

初診 昭和12年 12月 4日。

診斷 右肺上葉浸潤。

家族歴 ナシ。

既往症 1昨年左乾性肋膜炎ニ罹患ス。

現病歴 數日來ヨリ微熱ト右胸痛ヲ訴フ。

初診時理學の所見 右胸上部ハ濁ヲ呈シ少許ノ小

第17表 越 島 某 17歳 (♂)

日 月	氣 胸 回 數	S. R			N. 白血球核分葉數 (觀察細胞100)						白血球百分率 (觀察細胞200)					萎 縮 狀 態	體 重
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V	平均 核數	N	L	M	E	R		
17/ 8	初回前	18	52	93	21	60	18	1		1.99	68	24	5.5	2.5		—	59.5 kg
15/ 9	4N.F	15	40	92	12	62	24	1	1	2.17	65	27	4.5	3.5		+	58.5 //
5/10	7 //	11	26	77	14	50	33	3		2.25	55	38.5	5	1.5		+	59 //
2/11	11 //	22	37	105	19	68	11	2		1.96	78	14	6	2		++	59 //
1/12	15 //	22	46	123	8	66	26			2.18	63.5	20.5	16			++	59 //
13/ 1	21 //	9	28	95	20	51	25	3	1	2.14	41	57	1	1		+++	59.5 //
9/ 2	25 //	10	23	74	30	44	24	2		1.98						//	60 //

水泡音ヲ聴取ス。

レントゲン所見 右上葉肺尖部ヨリ第4肋間部マデ軟陰翳像ヲ見鎖骨下ニ徑2cm大ノ空洞ヲ有ス。

ガフキー0號。マントー氏反應 2×2.5cm。

右肺萎縮状態經過 右肺側中央部ニ索狀癒着アリテ完全氣胸ヲ形成セズト雖モ補充注入21回ニテ高度ニ萎縮ス(++)。

S.R. 萎縮進展ト共ニ正常數ヲ示シ後チ少シク速進スルヲ認メタリ。

平均核數右方移動ヲ示ス。

白血球百分率 著明ナル變動ヲ認メズ。

體溫 平熱トナル。

體重 41kgヨリ44kgトナリ3kgノ増加。

觀察期間 5ヶ月、現在氣胸療法續行中。

第18表 福 島 某 20歳 (♂)

日 月	氣 胸 回 數	S. R			N. 白血球核分葉數 (觀察細胞100)						白血球百分率 (觀察細胞200)					萎 縮 狀 態	體 重
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V	平均 核數	N	L	M	E	R		
7/12	初回前	48	77	123	24	55	18	3		2.00	73	24		3		—	41 kg
12/ 1	5N.F	8	27	90	20	38	41	1		2.23	77	6	8.5	8.5		+	42 //
8/ 2	9 //	1	6	67	22	45	31	1	1	2.14	67	23	5	5		++	43.5 //
1/ 3	12 //	2	8	60	15	45	33	7		2.32	50	38	8	4		//	43.5 //
3/ 4	17 //	13	28	83	16	53	28	3		2.18	71.5	22.5	2	3		//	43.5 //
3/ 5	21 //	10	25	75	18	48	29	5		2.21	54.5	37.5	4.5	3.5		+++	44 //

(19) 藤江某 17歳 (♀) 無職。

初診 昭和12年6月8日。

診断 左肺上葉浸潤。

家族歴 6月2日兄肺結核ニテ死亡ス。

既往症 ナシ。

現病歴 兄肺結核ニテ死亡セル爲健康診断ヲ希望ス。

初診時理學的所見 ナシ。

レントゲン所見 肺尖部ヨリ第2肋間部迄見ラレル稍ヤ増殖化セル陰翳ナリ。

ガフキー0號。マントー氏反應 2×2cm。

左肺萎縮状態經過 肋膜癒着ナク完全氣胸ヲ形成

ス。補充注入13回ニシテ高度ノ萎縮ヲ見ル(+++)。

S.R. 及平均核數 S.R.ハ補充13回ニシテ正常數ニ達シ平均核數モ右方移動ス。

白血球百分率 Nハ稍ヤ増加ノ傾向ヲ示ス。

觀察期間 8ヶ月、現在氣胸療法繼續中。

體溫 平溫。

體重 41kgヨリ44kgトナリ3kgノ増加ヲ示ス。

(20) 越野某 27歳 (♂) 銀行員。

初診 昭和12年7月2日。

診断 右肺上葉浸潤。

家族歴、既往症 共ニナシ。

現病歴 去月10日來咳嗽、喀痰アリ昨日ハ血痰アリ

第19表 藤江某 17歳 (♀)

日 月	氣胸 回数	S. R			N.白血球核分葉數 (觀察細胞 100)					白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮 狀態	體重	
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V	平均 核數	N	L	M	E			B
9/ 6	初回前	25	49	100	20	56	20	4		2.08	52	37	6	5		—	41 kg
21/ 7	6 N.F	17	42	92	16	52	28	4		2.20	77	15	5	3		+	41 "
10/ 8	9 "	16	39	95	13	60	23	4		2.18	72.5	20.5	1	6		++	42 "
8/ 9	13 "	8	22	84	16	61	23			2.07	56.5	40.5		3		+++	42.5 "
6/10	17 "	7	18	77	17	43	39	1		2.24	46	50.5	1.5	2		+++	43.5 "
5/11	21 "	5	12	75	13	55	26	6		2.25	63	34	1.5	1.5		+++	45.5 "
1/12	25 "	4	20	80	18	44	38			2.20	62.5	33.5	1.5	2.5		+++	46 "
13/ 1	31 "	2	6	42	10	60	29	1		2.21	51	44.5	3.5	1		+++	45 "
10/ 2	34 "	10	27	85	22	64	13		1	1.94	65	31.5	1.5	2		+++	44 "

キト。

初診時理學的所見 ナシ。

レントゲン所見 右肺全葉ニ擴マレル懸雲狀ノ軟陰翳像ナリ。而シテ鎖骨下外側ニ於テ徑4cm大ノ空洞ヲ認ム。

ガフキー0號。マントー氏反應 2.5×2.5cm。

右肺萎縮狀態經過 肋膜癒着ナク完全氣胸ヲ形成シ補充注入18回。總送氣量8,000ccニシテ極度ニ萎縮セ

ラル(冊)。

S.R.ハ萎縮進展ト共ニ遲延シ略ボ正常數トナル。

平均核數 右方移動ヲ認メタルモ28回補充時ニS.R.速進ト共ニ左方移動ヲ輕度ニ認ム。

白血球百分率 Nノ減少I, Eノ増加ヲ認ム。

觀察期間8ヶ月、現在氣胸療法繼續中。主訴ナシ。

體溫 平温トナル。

體重 50kgヨリ53kgトナリ3kgノ増加ヲ示ス。

第20表 越野某 27歳 (♂)

日 月	氣胸 回数	S. R			N.白血球核分葉數 (觀察細胞 100)					白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮 狀態	體重	
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V	平均 核數	N	L	M	E			B
2/ 7	初回前	57	91	126	26	47	11	6		1.77	91.5	5.5	2	1		—	50 kg
3/ 8	5 N.F	35	65	105	15	70	11	4		2.04	72	14.5	5.5	8		++	49 "
7/ 9	10 "	30	58	96	19	61	19	1		2.02	76	18.5		5.5		+++	50.5 "
6/10	14 "	14	35	85	16	64	20			2.04	75	13.5	6	5.5		〃	51.5 "
4/11	18 "	11	30	79	22	60	16	2		1.98	80	14	2.5	3.5		+++	52 "
1/12	22 "	6	18	68	12	56	29	3		2.23	90	5	1	4		〃	52 "
14/ 1	28 "	4	19	65	13	56	29	2		2.20	62	36	0.5	1.5		〃	52 "
9/ 2	32 "	13	33	93	20	59	20	1		2.02	77.5	20		2.5		〃	52.5 "
3/ 3	34 "	10	34	100	12	69	18	1		2.08	84	14.5		1.5		〃	53 "

(21) 奥村某 24歳 (♂) 農業。

初診 昭和12年6月25日。

診斷 右側肺門結核。

家族歴 ナシ。既往症 ナシ。

現病歴 10日前ヨリ左胸部疼痛、咳嗽、咯痰、盜汗、

初診時理學的所見 ナシ。

レントゲン所見。右肺門部ハ長サ6cm幅4cm大ニ増大シ肺門部上下ヨリ肺内ニ向ヒ増強セル數條ノ増殖性索狀浸潤ヲ認ム。

ガフキー0號。マントー氏反應 2×2cm。

右肺萎縮狀態經過 肋膜癒着ナク完全氣胸ヲ形成シ補充注入5回ニシテ中等度ニ萎縮ス(++)。

S.R. 5回補充ニシテ軽度速進スルニ至ル。
平均核數 右方移動ス。
白血球百分率 著變ナシ。

觀察期間2ヶ月、主訴 消失ス。來所セズ。
體溫 平溫。
體重 57kgヨリ58.5kgトナリ1.5kgノ増加ヲ示ス。

第21表 奥村某 24歳 (♂)

日 月	氣胸 回数	S. R			N. 白血球核分葉數 (觀察細胞100)						白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮 狀態	體重
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V	平均 核數	N	L	M	E	B		
29/6	初回前	45	75	123	22	55	18	5		2.06	73.5	21.5	2	3		—	57 kg
4/8	5 N.F	11	28	82	17	57	20	6		2.15	77	15		8		++	57 "
8/9	10 "	9	24	78	25	40	28	7		2.17	72	21	5	2		++	58.5 "

(22) 山本某 32歳 (♂) 官吏。
初診 昭和12年10月4日。
診断 兩側肺浸潤。
家族歴、既往症 ナシ。
現病歴 數日來咳嗽、喀痰、盜汗ヲ訴フ。
初診時理學の所見 ナシ。
レントゲン所見 右側鎖骨ノ高サニ一致シテ大サ
2cm大ノ境界不鮮明ノ軟陰翳ヲ認ム。左肺下葉横隔膜
ニ接シ境界稍ヤ鮮明ナル陰翳ヲ認ムレドモコノ翳像ハ
右肺氣胸數回施行セル後チ消褪セリ。
ガフキー0號、マントー氏反應 2×2cm。

右肺萎縮狀態經過 右肺尖部ニ索狀癒着アリト雖モ
補充注入15回ニシテ中等度(++)33回ニテ高度ニ萎縮セ
ラル(+++).
S.R. 萎縮進展ト共ニ正常數トナリ後チ軽度速進
ス。
平均核數 右方移動ヲ認ム。
白血球百分率 Nノ減少Lノ増加ヲ認ム。
體溫 平溫。
體重 變動ヲ見ズ。
觀察期間 6ヶ月。初診時主訴消褪ス。現在氣胸療
法繼續中。

第22表 山本某 32歳 (♂)

日 月	氣胸 回数	S. R			N. 白血球核分葉數 (觀察細胞100)						白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮 狀態	體重
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V	平均 核數	N	L	M	E	B		
5/10	初回前	78	112	135	36	49	12	3		1.82	81	12	5	2		—	51.5 kg
2/11	5 N.F	27	62	121	28	41	28	3		2.06	70	24.5	3.5	2		+	52 "
9/12	10 "	15	42	105	22	47	26	5		2.14	84	9.5	5.5	1		+	51 "
12/1	15 "	2	5	45	26	59	14	1		1.90	68.5	25	6.5			++	51.5 "
9/2	19 "	6	24	87	20	52	22	6		2.14	63	23	3	1		++	52 "
2/3	22 "	7	18	68	27	54	18	1		1.93	70.5	23.5	3	3		++	51 "
19/5	33 "	12	30	92	23	54	22	1		2.01	76	16	5	3		+++	51.5 "

(23) 北川某 25歳 (♀) 事務員。
初診 昭和12年10月20日。
診断 左肺浸潤並ニ右側葉間肋膜肥厚。
家族歴 10年前ニ妹腹膜炎ニ罹患ス。
既往症 ナシ。
現病歴 3ヶ月來右胸部疼痛ト右肩凝ヲ訴フ。
初診時理學の所見 ナシ。

レントゲン所見 左肺中野ニ於テ肺門部ニ接シ徑
4cm大ノ境界不鮮明ナル軟陰翳像ヲ認ム。右肺ニ葉間
肋膜肥厚ヲ認ム。
ガフキー0號、マントー氏反應 3×4cm。
左肺萎縮狀態經過 肋膜癒着ナク完全氣胸ヲ形成
ス。補充回数13回ニシテ高度ニ萎縮ス(++).
S.R. ハ萎縮進展ト共ニ正常數マデ遲延スレドモ後チ

再ビ中等度ノ速進ヲ示ス。

平均核數 右方移動ヲ示ス。

白血球百分率 著明ナル變化ナシ。

觀察期間7ヶ月、氣胸療法繼續中。

主訴 消失ス。

體溫 平溫。

體重 44.5kgヨリ46kgトナリ1.5kgノ増加ヲ示ス。

第23表 北川某 25歲 (♂)

日 月	氣胸 回数	S. R			N. 白血球核分葉數 (觀察細胞100)					平均 核數	白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮 狀態	體重
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V		N	L	M	E	B		
26/10	初回前	66	106	129	23	56	19	2		2.00	70.5	23.5	2	4		—	44.5 kg
30/11	6 N.F	43	75	118												+	45 "
21/12	9 "	41	64	100	14	61	22	3		2.14	80	12.5	5	2.5	++	45 "	
18/ 1	13 "	5	28	98	17	60	19	4		2.10	75.5	17	5	2.5	+++	45.5 "	
8/ 2	16 "	5	15	85												45.5 "	
2/ 3	18 "	24	50	101	20	55	23	2		2.07	66.5	30.5	0.5	2.5		46 "	
5/ 4	23 "	30	60	103	20	58	15	7		2.09	63.5	28.5	1	7		45 "	
12/ 5	28 "	17	40	93	22	46	30	2		2.12	72.5	17.5	4.5	5		46 "	

第2節 考慮スベキ滲出液ノ瀦溜ヲ見シ例

(24) 岩見某 21歲 (♂) 職工。

初診 昭和11年7月16日。

診斷 左肺上葉浸潤。

家族歴 兄(23歲)數年前肋膜炎。既往症ナシ。

現病歴 2週間來左胸部疼痛、咳嗽、咯痰アリ。

コレマデ10回咯血アリタリト。

初診時理學の所見 左側鎖骨部呼吸音微弱ナリ。

レントゲン所見 左側上野全體ニ擴マレル混合型陰

翳ナリ。

ガフキー0號、マントー氏反應 4×8cm。

左肺萎縮狀態經過及滲出液程度

肺尖部ニ索狀癒着アリテ完全氣胸ヲ形成スルコト不

可能ナリト雖モ12回補充注入ニヨリテ高度ニ萎縮セラ
ル(++)。滲出液ハ第10回補充時頃ヨリ漸次増加シ19回
補充時頃ニハ鎖骨下マデ瀦溜スルニ至リタリ(+++)。

S.R.ハ漸次遅延セルモ滲出液高度トナルニ及ビ異常
ナル速進ヲ示スニ至ル。

平均核數 時ニ左方移動時ニ右方移動スレドモ全體
ノ結果ヨリ考慮スルトキハ右方移動ナリ。

白血球百分率 認ムベキ著變ヲ見ズ。

體溫 時ニ微熱ヲ訴ヘシコトアルモ概シテ平溫ナ
リ。

體重 50.5kgヨリ50kgトナリ0.5kgノ減少ヲ示ス。

觀察期間 6ヶ月滲出液高度トナルニ及ビ來所セ
ズ。

第24表 岩見某 21歲 (♂)

日 月	氣胸 回数	S. R			N. 白血球核分葉數 (觀察細胞100)					平均 核數	白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮 狀態	滲出 液程 度	體重
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V		N	L	M	E	B			
16/ 7	初回前	72	105	125												—	—	50.5 kg
13/ 8	3 N.F	54	81	121	30	48	21	1		1.93	72.5	23.5	2	2		+	—	50.5 "
10/ 9	7 "	47	75	108	34	49	16	1		1.84						++	—	51 "
9/10	12 "	18	42	100	22	45	24	9		2.20	54.5	25.5	15	5		+++	+	52 "
6/11	16 "	27	55	109	23	52	24	1		2.03	71.5	19.5	7	2		+++	++	50 "
25/ 1	19 "	80	112	130	21	49	26	3	1	2.14	65	30.5	2	2.5		+++	+++	50 "

(25) 宮本某 31歲 (♂) 職人。

初診 昭和11年9月1日。

診断 右肺上葉浸潤。
 家族歴及既往症 ナシ。
 現病歴 數日來右側胸部疼痛，咳嗽，咯痰，肩凝。
 初診時理學の所見 右上部濁音ヲ呈シ呼吸音弱。
 レントゲン所見 右側肺尖部ヨリ中野ニ亘ル大理石紋様ノ軟陰翳ナリ。
 ガフキー0號。マントー氏反應 4×6cm。
 右肺萎縮狀態經過及滲出液程度 右肺側中央部ニ索狀癒着アリテ不完全氣胸ナレドモ，補充注入20回ニシテ極度ニ萎縮セラル(卅)。
 滲出液ハ補充回数8回頃ヨリ邊緣滲出液ヲ認メ漸次増加ノ傾向アリ。24回補充時ニハ右肺中央部マデ26回補充時ニハ鎖骨下マデ滲溜ス(卅)。

其間5回ニ亘リ總量2,200cc穿刺セリ，而シテ24回補充時以後ハ穿刺液ノ排出後少量ノ空氣ヲ補充シ置ク程度トセリ。
 S.R. 萎縮進展ト一致セズ寧ろ稍ヤ速進ノ傾向アルモ氣胸開始後11ヶ月頃ヨリ遲延セリ。
 平均核數 約2ヶ月後ニ於テ著シキ右方移動15回補充時ニ最高右方移動ヲ示シ再ビ左方移動ス。
 白血球百分率 Nノ輕度ノ増加Lノ輕度ノ増加ヲ示シタレドモ不安定ニシテ一定ノ平衡狀態ヲ保タズ。
 體溫 恒溫ヲ保タズ微熱アリ動搖甚ダシ。
 體重 滲溜液ヲ有スルガ故ニ動搖シタリ。
 觀察期間 14ヶ月氣胸療法中止ス。

第25表 宮本某 31歳 (♂)

日 月	氣胸 回数	S. R			N. 白血球核分葉數 (觀察細胞100)					白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮 狀態	滲出 液程 度	體 重	穿 刺量	
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V	平均 核數	N	L	M	E					B
1/9	初回前	30	70	117	66	32	1	1		1.37	42	47.5	8.5	2		-	-	47 kg	
27/10	8 N.F	42	74	111	41	48	8	3		1.73	51.5	41.5	6	1		+	-	45 "	
26/11	12 "	60	74	112	38	49	12	1		1.76	75	16	4.5	4.5		++	+	46 "	
17/12	15 "	29	56	106	15	50	27	8		2.28	66.5	22	9.5	2		++	+	48 "	
20/1	19 "	6	21	95	20	53	20	7		2.14	67	24	3	6		卅	+	49 "	
17/2	"	27	60	90	30	42	23	5		2.03	41.5	50.5	7	1		卅	++	50 "	
8/4	24 "	55	80	109	31	47	18	4		1.95	52	45.5	1.5	1		"	卅	51.5 "	300cc
13/5	25 "	33	58	103	37	39	19	5		1.92	70	9.5	9	11.5		"	"	52 "	300 "
9/6	26 "	28	55	101	29	51	16	4		1.95	50	22	17	11		"	卅	52 "	500 "
8/7	28 "	43	75	110	22	57	17	4		2.03	49	38	7	6		"	"	51.5 "	600 "
7/8	"	30	60	105	26	53	18	3		1.98	56	25.5	11.5	7		"	"	49.5 "	500 "
6/10	"	19	45	75	25	43	28	4		2.11	52	37	8.5	2.5		"	"	47.5 "	
9/12	"	11	30	83	20	54	25	1		2.07	56.5	29	13.5	1		"	"	49 "	

(26) 宮本某 18歳 (♀) 無職。
 初診 昭和11年9月8日。
 診断 左肺上葉浸潤。
 家族歴 本年8月31日父肺結核ニテ死亡ス。
 既往症 ナシ。
 現病歴 健康診断ヲ希望ス。
 初診時理學の所見 ナシ。
 レントゲン所見 左鎖骨下ニ於ケル2cm大ノ軟陰翳ナリ。
 ガフキー0號。マントー氏反應 4×5.5cm。
 左肺萎縮狀態經過及滲出液程度 左肺尖部ニ索狀癒着ヲ有スル不完全氣胸ナリ，補充注入12回ニシテ中等

度萎縮ヲ見タル後チハ萎縮程度不良ナリ(++)。補充41回時ニ滲出液程度(+)。補充50回時ニハ滲出液程度(卅)ナリ。
 S.R. 萎縮進展ト共ニ遲延セルモ後チ滲出液ノ出現ト共ニ速進セリ。
 平均核數 輕度ノ右方移動ヲ示セドモ多量ノ滲出液ノ出現ト共ニ左方移動セリ。
 白血球百分率 著明ナル變化ナシ。
 體溫 平溫ナリ。
 體重 經過ト共ニ4kgノ増加ヲ示セドモ滲出液ノ出現ト共ニ減少シ最後ニ來訪セシ折ハ50kgトナリ最初ヨリ0.5kgノ増加ヲ示セシノミナリ。

觀察期間 14ヶ月。氣胸回数46回日ニ來訪セシ以來
約2ヶ月間來訪セズ。ソノ間ニ最初輕度ナリシ滲出液

ハ増加シ再ビ來訪ノ時ハ中央部マデ滯溜シ穿刺ノ機會
ヲ得ズシテ去ル。

第26表 宮本某 18歳 (♀)

日 月	氣胸 回数	S, R			N. 白血球核分葉數 (觀察細胞100)					平均 核數	白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮 狀態	滲出 液程 度	體重
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V		N	L	M	E	B			
11/ 9	初回前	12	29	93	40	40	14	6		1.86	69.5	27	3	0.5		-	-	49.5 kg
9/10	4 N.F	11	28	84	32	44	22	2		1.94	68	23	4.5	4.5		+	-	48 //
6/11	8 //	7	20	70	30	43	24	2	1	2.01	77.5	15	6	1.5		+	-	49 //
3/12	12 //	3	10	67	22	48	26	4		2.12	70	22	7	1		++	-	52 //
20/ 1	18 //	5	20	94	24	45	28	3		2.10	81	13	2	4		+	-	53 //
17/ 2	22 //	9	30	109	27	52	18	3		1.97	80.5	14.5	4	1		+	-	53.5 //
11/ 3	25 //	4	7	75	23	42	29	4	2	2.20	73.5	19	6.5	1		+	-	53.5 //
14/ 4	28 //	9	27	75	24	43	27	6		2.15	61	29.5	8.5	1		+	-	52.5 //
15/ 5	32 //	9	25	82	23	51	24	2		2.05	82	12	5.5	0.5		+	-	53 //
9/ 6	36 //	12	33	81	30	40	27	2	1	2.04	65.5	23.5	8	3		+	-	51.5 //
1/ 7	38 //	14	34	85	26	44	28	2		2.06	68	26.5	3.5	2		+	-	51 //
18/ 8	41 //	39	70	103	28	50	20	2		1.96	78	11	6	5		+	-	51 //
16/ 9	43 //	24	56	85	28	43	22	5	2	2.10	79.5	9	9.5	2		+	-	50 //
28/10	46 //	16	40	90	18	62	20			2.02	70.5	20.5	5.5	3.5		+	-	50.5 //
23/12	50 //	81	120	133	30	58	12			1.82	73.5	18.5	8	0		+	-	50 //

(27) 高柳某 20歳 (♂) 職人。

初診 昭和11年9月14日。

診断 右肺上葉浸潤。

家族歴、既往症 ナシ。

現病歴 1週間前ニ右側肺尖結核ト診断サレ現在咳嗽、盜汗、全身倦怠感ヲ訴フ。

初診時理學的所見 右側肺尖部濁音ヲ呈シ該濁音界ハ呼吸音鋭ナリ。

レントゲン所見 右側上葉全體ニ亘レル軟陰翳ナリ。

ガフキー0號。マントー氏反應 9.5×5cm。

右肺萎縮狀態及滲出液程度 右肺中央部ニ索狀癒着ヲ有スル不完全氣胸ナレドモ、補充注入21回時ニ極度ニ萎縮セルル(卅)。補充27回時ニ滲出液程度(+)ヲ認め漸次増量シ37回時ニハ滲出液程度(卅)トナリ450cc穿刺セリ。其後ハ漸次吸收セラレ消滅セリ。

S.R. 萎縮進展ト共ニ正常數迄遲延セルモ滲出液ノ増加ト共ニ速進シ減少ト共ニ再ビ遲延ス。

平均核數 右方移動ヲ認めレドモ滲出液ノ出現ニ伴ヒ多少左方移動ス。

白血球百分率 Eノ出現著明ナリ。

體温 時ニ微熱アルモ概シテ平温ナリ。

體重 滲出液出現時ニ減少ヲ見タルモ滲出液ノ消滅ト共ニ再ビ増加セリ。

觀察期間 14ヶ月。補充注入25回以後ハ氣胸期間ヲ延長セル爲右肺ノ擴張ト共ニ肋膜癒着漸次高度トナリ送氣ニ依ルモ剝離セズ送氣不可能トナレリ。

(28) 城西某 15歳 (♀) 女學生。

初診 昭和11年11月19日。

診断 右肺上葉浸潤。

家族歴 ナシ。

既往症 昨年11月當相談所ニ於テ右肺上葉浸潤並ニ肋膜炎ノ診断ヲ受ク。

現病歴 ナシ。

初診時理學的所見 右胸部呼吸音稍ヤ弱シ。

レントゲン所見 右肺上葉ニ擴マレル懸雲狀軟陰翳ナリ。

ガフキー0號。マントー氏反應 5×6cm。

右肺萎縮狀態經過及ビ滲出液程度 肋膜癒着ナク完全氣胸ヲ形成シ補充回数12回ニシテ極度ニ萎縮セル(卅)。補充注入20回時頃ヨリ邊緣滲出液ヲ認め漸次増量シ補充27回時ニハ右肺中央部マデ滯溜スルニ至リ(卅)300ccニ穿刺セリ。其ノ後ハ良好ナル經過ヲトリ補充注入40回時頃ニハ邊緣滲出液トナレリ。

第27表 高柳某 20歳 (♂)

日 月	氣胸 回数	S. R			N. 白血球核分葉數 (觀察細胞100)					平均 核數	白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮 狀態	滲出 液程 度	體 重	穿刺量
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V		N	L	M	E	B				
16/9	初回前	44	78	125	50	29	18	3		1.74	66	31	3			—	—	46.5kg	
9/10	4 N.F	16	42	100	38	36	24	2		1.90	74.5	12	6.5	7		+	—	47 "	
5/11	8 "	9	22	88	30	44	20	4	2	2.04	68.5	14	6	11.5		+	—	47.5 "	
3/12	12 "	4	16	90	28	39	25	8		2.13	74.5	25.5	8	2		++	—	46.5 "	
13/1	17 "	5	18	94	20	40	29	9	2	2.33	77.5	10	2	10.5		+++	—	45 "	
10/2	21 "	5	18	94	31	44	20	4	1	2.00	50	40		10		+++	—	45.5 "	
10/3	25 "	10	28	98	27	59	13	1		1.88	65	26.5		8.5		"	—	44.5 "	
7/4	27 "	55	83	122	24	50	22	4		2.06	49.5	45	1.5	4		"	+	45.5 "	
5/5	31 "	71	110	123	27	59	13	1		1.88	—	—	—	—		"	+	42.5 "	
10/6	33 "	40	73	116	18	50	26	4	2	2.22	69	15	8.5	7.5		+++	+	44 "	
1/7	34 "	28	52	102	26	56	17	1		1.93	73.5	18.5	2.5	5.5		++	+	45.5 "	
2/9	37 "	17	25	72	29	56	11	3	1	1.91	60.5	20	7.5	12		+	+++	45 "	450cc
26/10	40 "	10	26	81	27	61	10	2		1.87	64	21	5	10		+	++	44.5 "	
26/11	42 "	6	20	78	—	—	—	—		—	—	—	—	—		+	+	46.5 "	
16/12	43 "	8	24	84	20	56	20	4		2.08	74	12.5	4	9.5		+	—	46 "	

S.R. 萎縮進展ト共ニ遲延シ輕度速進ヲ見ルニ至リ
タルモ滲出液ノ出現ト共ニ速進シ後チ滲出液ノ減少ト
共ニ再ビ輕度ノ遲延ヲ示セリ。

平均核數 最初右方移動, 滲出液ノ出現ト共ニ左方
移動シ, 後チ少シク右方移動セリ。

體溫 常ニ平温ヲ保テリ。

體重 滲出液出現時ニ減少セリト雖モ最初ノ41.5kg
ヨリ43kgトナリ15kgノ増加ヲ示ス。

觀察期間1ヶ年。現在邊縁滲出液ヲ見ルノミニシテ
一般狀態可良, 1ヶ月1回ノ割ニテ少量ノ補充注入ニ
テ氣胸繼續中ナリ。

第28表 城西某 15歳 (♀)

日 月	氣胸 回数	S. R			N. 白血球核分葉數 (觀察細胞100)					平均 核數	白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮 狀態	滲出 液程 度	體 重	穿刺量
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V		N	L	M	E	B				
19/11	初回前	57	79	122	29	60	10	1		1.83	75.5	18.5	5	1		—	—	41.5kg	
15/12	4 N.F	35	62	116	18	50	28	4		2.18	63	23.5	7	6.5		++	—	41.5 "	
13/1	8 "	22	60	114	21	55	23	1		2.04	75	14	6	5		+++	—	41 "	
9/2	12 "	13	36	103	32	50	16	2		1.88	87.5	4.5	2.5	5.5		+++	—	41 "	
10/3	16 "	10	26	95	25	52	19	4		2.02	78	19	2	1		"	—	40.5 "	
7/4	18 "	20	41	103	19	46	30	4	1	2.22	61	35	2.5	1.5		"	—	40 "	
5/5	22 "	63	97	128	29	57	14			1.85	74	19.5	5.5	1		"	+	38.5 "	
8/6	25 "	25	56	110	30	48	19	3		1.95	71.5	23.5	5			"	++	38.5 "	
20/7	27 "	22	53	93	20	61	17	2		2.01	70	25	3.5	1.5		"	+++	39.5 "	
31/8	29 "	24	51	92	45	42	12	1		1.69	72	14	2	12		"	+++	39 "	300cc
4/11	32 "	20	49	110	27	56	16	1		1.91	70	17.5	5	7.5		"	++	41.5 "	
16/12	34 "	15	40	106	25	57	15	2	1	1.97	57.5	36.5	3	3		"	+	43 "	

(29) 宮本某 29歳 (♂) 無職。

初診 昭和12年2月1日。

診斷 右肺上葉浸潤。

家族歴, 既往歴 共ニナシ。

現病歴 昨秋來右側胸部ノ重壓感ヲ訴フ。
 初診時理學的所見 右肺尖部ハ濁音ヲ呈シ小水泡音ヲ聴取ス。
 レントゲン所見 右肺尖部ヨリ上野第2肋間ニ亘ル軟陰嚢像ナリ。
 ガフキー0號。マントー氏反應 4.5×3cm。
 右肺萎縮狀態經過及ビ滲出液程度 右肺尖部ニ索狀癒着アリテ完全氣胸ヲ形成セズト雖モ補充注入38回ニテ高度ニ萎縮ス(卅)。滲出液ハ初メ10ヶ月出現セザリシモ48回補充時頃ヨリ滲溜シ漸次滲溜ノ傾向ヲ示シ55

回補充時頃ニハ中央部マデ滲溜スルニ至リ3回ニ亘リ總量1.500cc 排出セリ。
 S.R. 萎縮進展ニ相反シテ速進ヲ示セドモ、後チ遲延スルニ至ル。
 平均核數 輕度ノ右方移動ヲ示ス。
 白血球百分率 著變ヲ認メズ。
 體溫 終始微熱ヲ訴フ。
 體重 不變。
 觀察期間 11ヶ月。後チハS.R.及穿刺液量ノミ記載シ置ケリ。目下氣胸療法續行中。

第29表 宮本某 29歳 (♂)

日 月	氣胸 回数	S. R			N. 白血球核分葉數 (觀察細胞100)					平均 核數	白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮 狀態	滲出 液程 度	體重	穿 刺 量
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V		N	L	M	E	B				
9/ 3	初回前	5	15	90	18	52	25	5		2.17	74	18.5	4.5	3		—	—	57 kg	
7/ 4	4 N.F	7	26	98	14	56	22	8		2.24	81	9.5	5	4.5		+	〃	55.5 〃	
4/ 5	8 〃	15	46	107	17	50	25	6	2	2.26	85	6	2	7		〃	〃	55 〃	
2/ 6	12 〃	11	35	94	28	48	19	4	1	2.02	70.5	20.5	4	5		〃	〃	55 〃	
7/ 7	17 〃	21	49	98	12	56	30	1	1	2.23	73	23.5	2	1.5		++	〃	55 〃	
5/ 8	21 〃	27	56	104	14	53	27	5	1	2.26	81.5	13.5	4	1		〃	〃	55 〃	
9/ 9	26 〃	10	30	80	24	50	22	2	2	2.08	60.5	34	3	2.5		〃	〃	56.5 〃	
6/10	30 〃	10	28	78	10	60	20	8	2	2.32	52	35.5	10	2.5		〃	〃	56.5 〃	
5/11	34 〃	8	23	82												〃	〃	58 〃	
1/12	38 〃	10	24	90	20	43	26	10	1	2.29	68.5	25	4.5	2		卅	〃	57 〃	
13/ 1	44 〃	4	19	77	12	52	24	12		2.36	53.5	37.5	3	6		〃	〃	57 〃	
10/ 2	48 〃	15	41	105	25	49	16	9	1	2.12	73.5	16.5	6	4		卅	+	57 〃	
15/ 3	52 〃	11	31	104												〃	++	56.5 〃	
16/ 4	55 〃	10	28	100												〃	卅	56.5 〃	6/4 200cc
19/ 5	〃	14	33	80												卅	卅	57 〃	19/5 700cc
18/ 6	60 〃	8	22	80												〃	卅	57 〃	21/5 600cc

(30) 森田某 16歳 (♂) 學生。
 初診 昭和12年9月20日。
 診斷 左肺浸潤。
 家族歴、既往歴 共ニナシ。
 現病歴 本年6月以來咳嗽喀痰盜汗ヲ訴フ。
 初診時理學的所見 左胸上部ニ小水泡音ヲ聴取ス。
 レントゲン所見 左肺ハ全體ニ亘リ大理石紋様ノ陰翳ニテ覆ハレ 中野上外側ニ徑3cm大ノ空洞ヲ有ス。
 ガフキー7號。マントー氏反應 1×2cm。
 左肺萎縮狀態經過及ビ滲出液程度 肋膜癒着ナク完全氣胸ヲ形成シ補充注入10回ニシテ極度ニ萎縮セラル(卅)。
 補充注入5回頃ヨリ邊緣滲出液ノ出現ヲ見、萎縮狀

態極度ナルニ及ビ中央部マデ16回補充時ニハ鎖骨下マデ滲溜シ(卅)、ソノ間4回ニ亘リテ穿刺シ漿液性液總量2.050cc 排出セリ、26回補充時ニハ邊緣滲出液ヲ見ルニ過ギズ。
 S.R. 萎縮進展ト共ニ遲延正常數ヲ示シ毫モ滲出液ノ滲溜ニ依リ變動ヲ示サザリキ。
 平均核數 漸次右方移動ヲ示シ後チ左方移動トナリタルモ正常核數内ニアリ。
 白血球百分率 百分率ハ變動大ニシテ一定ノ關係ヲ發見シ得ズ。
 體溫 氣胸前ハ輕熱ヲ訴ヘ居リシモ氣胸後ハ平熱トナル。
 體重 40.5kgヨリ42kgトナリ1.5kgノ増加ヲ示ス。

觀察期間 6ヶ月 主訴消褪セルモ現在氣胸療法續行中。

第30表 森田某 16歳 (♂)

日 月	氣胸 回数	S. R			N. 白血球核分葉數 (觀察細胞100)					白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮 状態	滲出 液程 度	體重	穿 刺 量	
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V	平均 核數	N	L	M	E					B
21/9	初回前	55	94	130	37	50	11	2		1.78	76	12.5	8	3.5		—	—	40.5 kg	
27/10	5 N.F	27	58	113	28	53	15	4		1.95	86	4	1	9		+	+	41.5 "	
30/11	10 "	25	50	111	—	—	—	—		—	—	—	—	—		+	+	41.5 "	
22/12	13 "	23	51	110	12	63	22	3		2.16						+	+	41 "	
19/1	"	7	19	67	16	53	26	5		2.20	60.5	27.5	10	2		+	+	41.5 "	12/II500cc 15/II400 "
2/3	16 N.F	5	17	67	20	58	20	2		2.04	86	4	10			+	+	41 "	9/III650 "
7/6	26 "	7	18	67	22	52	22	4		2.08	—	—	—	—		+	+	42 "	17/III500 "

第3節 高度ノ肋膜癒着ヲ發見セシ例

(31) 源某 31歳 (♀) 無職。
 初診 昭和11年7月21日。
 診断 左肺上葉浸潤。
 家族歴 ナシ。
 既往症 3年前左肺尖結核。
 現病歴 10日以來羸瘦，微熱，食欲不振，咳嗽咯痰アリ。
 初診時理學的所見 左側肺尖部濁音呼吸音弱。
 レントゲン所見 左肺尖部ヨリ第3肋間ニ亘ル軟陰翳ナリ。

ガフキー0號。マントー氏反應 8×9.5cm。
 左肺萎縮状態經過 肺尖部ヨリ第2肋骨側ニ亘ル癒着ノ爲メ萎縮状態思ハシカラズ。送氣ニヨル癒着剝離不能ナリ。
 S.R. 萎縮進展ト共ニ輕度ニ遲延スレドモ，後チ速進ス。
 平均核數 初メ右方移動後半左方移動ニ轉ズ。
 白血球百分率 Nノ増加，Lノ減少，Mハ増加セリ。
 體温 平温トナル。
 體重 39kgヨリ35kgトナリ4kg減少セリ。
 觀察期間 13ヶ月。氣胸療法ヲ中止セリ。

第31表 源某 31歳 (♀)

日 月	氣胸 回数	S. R			N. 白血球核分葉數 (觀察細胞100)					白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮 状態	體 重		
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V	平均 核數	N	L	M	E			B	
23/7	初回前	96	121	130												—		39 kg
20/8	4 N.F	73	107	124												+		36.5 "
24/9	9 "	70	105	124	48	40	11	1		1.65	57	41	1.5	0.5		"		36 "
23/10	13 "	84	97	118	35	48	15	2		1.84	60	29.5	8	2.5		"		36.5 "
24/11	16 "	25	60	113	27	61	10	2		1.87	72.5	22.5	4	1		"		37 "
14/12	18 "	39	61	115	19	65	14	2		1.99	70.5	21.5	7	1		+		36.5 "
8/1	20 "	48	83	118	23	56	19	2		2.00	65.5	29.5	3	2		"		36.5 "
9/2	23 "	50	82	119	25	46	20	9		2.13	68	28	2.5	1.5		"		36 "
11/3	26 "	21	62	112	26	53	20	1		1.96	73.5	19.5	6	1		"		37 "
8/4	27 "	19	57	110	25	58	14	3		1.95	41	57	2			"		35.5 "
13/5	30 "	76	101	133	29	50	14	7		1.99	85	5	5	5		"		36.5 "
10/6	32 "	92	102	124	24	64	10	1	1	1.91	80.5	14.5	4.5	0.5		"		36 "
22/7	34 "	65	95	122	31	55	14			1.83	83	10	6	1		"		36 "
2/9	36 "	81	108	126	34	58	7	1		1.75	78.5	16.5	5			"		35 "

(萎縮状態ハ完全ナルコト望ミナキモ便宜上癒着以外ノ萎縮状態ヲ第1章ニ掲ゲタル規約ニ依ツテ以下之ヲ示ス)

(32) 高木某 37歳 (♂) 商業。
 初診 昭和12年2月3日。
 診断 左肺浸潤及ビ右側肋膜肥厚。
 家族歴 10年前兄肺結核ニテ死亡ス。
 既往症 1年前ニ咯血アリタリト。
 現病歴 6ヶ月前ヨリ右側前胸部疼痛、咳嗽、咯痰アリ昨年来嘔聲ナリト。
 初診時理學の所見 右側棘濁音呼吸音稍ヤ弱。
 レントゲン所見 左肺尖部ヨリ第4肋間ニ亘リ懸雲状ノ軟陰翳ヲ認め、右側肋膜肥厚ヲ認め。

ガフキー0號。マントー氏反應 3×4.5cm。
 左肺萎縮状態經過 肺尖部ヨリ第2肋骨側ニ亘ル癒着ノ爲メ萎縮状態9回補充後モ程度ナリ。送氣ニ依ル癒着剝離不能ナリ。
 S.R. 反對ニ連進ヲ來セリ。
 平均核數 左方移動セリ。
 白血球百分率 Nノ減少、Lノ増加ヲ認め。
 體温 一定セズ常ニ輕熱ヲ有ス。
 體重 不變。
 觀察期間 2ヶ月。來訪セザルニ至ル。

第32表 高木某 37歳 (♂)

日 月	氣胸 回数	S. R			N.白血球核分葉數 (觀察細胞100)					平均 核數	白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮 状態	體重
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V		N	L	M	E	B		
10/2	1 N.F.	49	100	126	27	59	11	2	1	1.91	71	16	7.5	5.5		-	52.5 kg
16/3	5 "	65	101	130	20	72	7	1		1.89	56	37	1	6		+	52.5 "
14/4	9 "	73	110	126	30	64	4	2		1.78	49	26	15	10		+	52.5 "

(33) 川尻某 23歳 (♂) 僧侶。
 初診 昭和12年4月6日。
 診断 右肺上葉浸潤。
 家族歴 先月23日父肺結核ニテ死亡ス。
 既往症 ナシ。
 現病歴 10日前ヨリ咳嗽、咯痰、盜汗ヲ訴フ。
 初診時理學の所見 右肺尖部濁音少許ノ小水泡音ヲ聴取ス。
 レントゲン所見 右側肺尖部ヨリ第3肋間ニ亘ル大理石紋様ノ陰翳ナリ。
 ガフキー0號。「マントー氏反應 4×5cm。

右肺萎縮状態經過 肺尖部ヨリ第2肋骨外端ニ及ブ癒着ノ爲メ完全氣胸ヲ形成セズ補充回数13回時ニモ中等度萎縮ヲ示スノミ。送氣ニヨル癒着剝離不能。
 S.R. 輕度ノ遲延ヲ見ルノミ。
 平均核數 初メ萎縮進展ニ反シ左方後チ右方移動ス。
 白血球百分率 Nノ増加、Lノ減少ヲ認め。
 體温 平温。
 體重 2.5kgノ減少アリ。
 觀察期間 5ヶ月、癒着ノ爲中止セリ。

第33表 川尻某 23歳 (♂)

日 月	氣胸 回数	S. R			N.白血球核分葉數 (觀察細胞100)					平均 核數	白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮 状態	體重
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V		N	L	M	E	B		
7/4	初回前	45	72	113	20	65	11	4		1.99	52	42.5	5	0.5		-	43 kg
4/5	4 N.F.	14	39	95	25	61	13	1		1.90	84.5	4	7.5	4		+	44.5 "
2/6	8 "	17	48	105	30	57	10	3		1.86	91.5	3.5	4	1		+	43 "
7/7	13 "	30	64	101	18	61	14	7		2.10	61.5	34.5	3.5	0.5		++	41 "
7/8	17 "	30	55	100	22	45	30	3		2.14	86	6	6	2		"	40 "
9/9	22 "	15	35	72	26	45	24	5		2.08	81.5	11	5	2.5		"	40.5 "

(34) 竹田某 22歳 (♀) 無職。
 初診 昭和12年5月20日。

診断 左肺上葉浸潤。
 家族歴 ナシ。

既往症 幼年時=肋膜炎。
 現病歴 昨日ヨリ右側胸部疼痛。咳嗽，喀痰，微熱ヲ訴フ。
 初診時理學の所見 ナシ。
 レントゲン所見 左胸肺尖部ヨリ第2肋間迄軟陰翳像ヲ認め鎖骨下外側ニ徑3cm大ノ空洞ヲ認め。
 ガフキー0號。マントー氏反應 2×2cm。
 左肺萎縮状態經過 最初肋膜癒着ナク完全氣胸ナリシモ補充9回時ニ滲出液 200cc 排除シ氣胸期間ヲ延長セル爲肺尖部ニ肋膜癒着，側面下部ニ索状癒着ヲ生ジ剝離スル目的ノ下ニ送氣スレドモ成功セズ。

補充7回時頃ヨリ滲出液ヲ見漸次増量シタレドモ200cc 穿刺セル後ハ約1ヶ月後ニシテ殆ンド吸収セラレタリ。
 S.R. 初メ輕度遅延セルモ肋膜癒着發生セルニ及ビ異常速進セルヲ認め。
 平均核數 初メ右方後チ左方移動ス。
 白血球百分率 Nノ減少L及ビEノ増加ヲ認め。
 體溫 終始微熱ヲ訴フ。
 體重 2kgノ減少アリ。
 觀察期間 3ヶ月送氣ニ依ル自然剝離不可能，氣胸療法中止ス。

第34表 竹田某 22歳 (♀)

日 月	氣胸 回数	S. R			N.白血球核分葉數 (觀察細胞100)					白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮 状態	滲出 液程 度	體 重	穿刺液	
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V	平均 核數	N	L	M	E					B
20/5	初回前	19	45	107	31	53	14	2		1.87	85.5	8.5	5.5	0.5		-	-	35 kg	
22/6	5 N.F	15	38	106	25	58	14	3		1.95	55.5	28.5	5.5	10.5		+	-	35 "	
20/7	9 "	18	43	102	20	61	17	2		2.01	58	34	2	6		++	++	35 "	200cc
18/8	11 "	60	90	125	32	52	14	1	1	1.87	55.5	40	2.5	2		+	-	33 "	

(35) 橋本某 29歳 (♀) 無職。
 初診 昭和12年6月5日。
 診断 左肺上葉浸潤及ビ右側肋膜肥厚。
 家族歴 ナシ。
 既往症 昨年6月右側肋膜炎。
 現病歴 3週間以來咳嗽喀痰，輕度ノ盜汗ヲ訴フ。
 初診時理學の所見 左胸上部呼吸音微弱ニシテ中水泡音ヲ少許聽取ス，背部該側ニハ大水泡音ヲ少許聽取ス。右側下部ハ濁音ヲ呈シ呼吸音微弱ナリ。
 レントゲン所見 左肺尖部ヨリ第3肋間ニ亘ル大理石紋様ノ軟陰翳ニシテ右側ニハ肋膜肥厚ヲ認め。
 ガフキー5號。マントー氏反應 2×2cm。
 左肺萎縮状態經過及ビ反對側新病竈出現 肋膜癒着ナク完全氣胸ヲ形成シ補充回数5回ニシテ中等度萎縮

ヲ認メタリ(++)。其ノ後1ヶ月後ニ反對側鎖骨下ニ小浸潤出現ノ爲1ヶ月間氣胸ヲ中止シソノ間浸潤ノ進行程度ヲ觀察スルモ進行ノ状況ヲ見ズ。仍チ再ビ左側ニ氣胸ヲ施行セントスルニ肺尖部ヨリ癒着ヲ招來シ居リ氣胸中止スルニ至ル。
 S.R. 初メ輕度ノ遅延ヲ見タルモ反對側ニ浸潤ノ出現時ニハ再ビ速進セリ。
 平均核數 浸潤出現時ニハ左方移動ヲ認め後チ右方再ビ左方移動セリ。
 白血球百分率 著變ヲ見ズ。
 體溫 氣胸前微熱アリタルモ氣胸後ハ平温トナル。
 體重 7kgノ減少ヲ示ス。
 觀察期間 5ヶ月，咳嗽喀痰最後マデ持續ス，喀痰ハ初メ5號ヲ示セドモ中止時ニハ3號トナレリ。

第35表 橋本某 29歳 (♀)

日 月	氣胸 回数	S. R			N.白血球核分葉數 (觀察細胞100)					白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮 状態	體 重		
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V	平均 核數	N	L	M	E			B	
15/6	1 N.F	76	119	135	32	66	2			1.70	72.5	25	2	0.5		-		49 kg
13/7	5 "	45	95	134	36	50	13	1		1.79	60	39	1			++		48 "
8/9	9 "	60	99	130	40	52	7	1		1.69	63	34.5	0.5	2		+		45 "
6/10	13 "	77	114	135	29	51	19	1		1.92	59.5	32.5	5.5	2.5		+		44 "
4/11	16 "	71	107	132	32	54	12	1	1	1.85	65.5	23.5	9	2		+		42 "

(36) 金石某 52歳 (♀) 商業。

初診 昭和12年7月12日。

診断 右肺浸潤。

家族歴 昨年子供肺結核ニテ死亡ス。

既往症 ナシ。

現病歴 先月來食欲不振咳嗽喀痰ヲ訴フ。

初診時理學の所見 右側下部ハ濁音ヲ呈シ該濁音界ニ於テ多數ノ中水泡音ヲ聴取ス。

レントゲン所見 右肺第2肋間部以下全體軟陰翳ニテ覆ハル。

ガフキー0號。マントー氏反應 1×2.5cm。

右肺萎縮狀態經過 肺尖部ヨリ第3肋骨側ニ亘ル癒着ノ爲メ輕度以上ノ萎縮ヲ認メズ。

S.R. 萎縮進展ト共ニ漸次遲延シ中等度速進ニ至ルモ後ヲ再び高度ニ速進セリ。

平均核數 輕度ノ右方移動ヲ示セドモ後ヲ輕度左方移動ス。

白血球百分率 Eノ増加ヲ示ス。

體溫 氣胸前輕熱アリタルモ數回氣胸後平溫トナル。

體重 2kgノ減少ヲ認メタリ。

觀察期間 11ヶ月、選擇氣胸トシテ現在療法續行中。

第36表 金石某 52歳 (♀)

日 月	氣胸 回数	S. R			N.白血球核分葉數 (觀察細胞100)						白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮 狀態	體重
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V	平均 核數	N	L	M	E	B		
13/7	初回剪	80	122	135	24	62	11	3		1.93	74	23	2.5	0.5		—	37 kg
10/8	4 N.F	58	88	120	20	52	20	6	2	2.18	66	20	8	6		+	37 //
7/9	8 //	50	87	120	19	51	27	3		2.14	63	31	0.5	5.5		//	37 //
6/10	11 //	42	78	124	20	50	22	6	2	2.20	69	11	10	10		//	38 //
4/11	15 //	35	69	118	18	52	27	3		2.15	68.5	22.5	4.5	4.5		//	38 //
1/12	19 //	30	63	114	19	50	26	5		2.17	68	22.5	3	6.5		//	39 //
13/1	25 //	15	35	110	14	53	27	6		2.25	65	27	4.5	3.5		//	38 //
9/2	29 //	23	55	113	13	61	20	6		2.19	72	20	6	2		//	38 //
2/3	32 //	60	95	128												//	36.5 //
6/4	35 //	60	94	135												//	35.5 //
7/5	38 //	42	78	130												//	36.5 //
9/6	41 //	96	131	140	25	53	18	4		2.01						//	35 //

(37) 東野某 23歳 (♂) 商業。

初診 昭和12年10月13日。

診断 右側肺門結核。

家族歴 妹14年前肺結核ニテ死亡、母腹膜炎死亡。

既往症 18歳ノ時頸部淋巴腺炎。

現病歴 9月20日風邪ニ罹患セシヨリ 38°C位ノ輕

第37表 東野某 23歳 (♂)

日 月	氣胸 回数	S. R			N.白血球核分葉數 (觀察細胞100)						白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮 狀態	體重
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V	平均 核數	N	L	M	E	B		
26/10	2 N.F	58	91	125	32	58	10			1.78	89	4	4	3		—	44 kg
30/11	7 //	11	30	100												+	43 //
21/12	10 //	10	30	88	25	52	23			1.98	73	21.5	5	0.5		//	42 //
19/1	14 //	3	26	99	21	52	25	2		2.08	75	13	6.5	5.5		//	41 //
9/2	17 //	25	45	102												//	41 //
1/3	20 //	29	57	113	35	50	13	2		1.82	82	12	1	5		++	41 //
6/4	25 //	54	93	122												//	39 //
3/5	26 //	32	60	105	33	57	9	1		1.78	61	32.5	2.5	4		//	38 //

熱ヲ訴フ。

初診時理學の所見 ナシ。

レントゲン所見 右肺門部ハ巾 3cm 長サ 4cm 大ニ増大シ肺内ニ浸入セル索狀浸潤増強ス。

ガフキー 0 號。マントー氏反應 1.2×1.5cm。

右肺萎縮狀態經過 右肺尖部ヨリ第 2 肋骨外端ニ及ブ癒着ノ爲メ完全氣胸ヲ形成セズ。

補充回数 20 回ニシテ肺門部ヲ基點トスル扇形ニ萎縮ス。

S.R. 初メ正數常マデ遲延スレドモ後チ速進ス。

平均核數 初メ右方後チ左方移動ス。

白血球百分率 N ノ減少, L ノ増加ヲ示ス。

體溫 平溫。

體重 6kg ノ減少ヲ示ス。

觀察期間 7 ヶ月, 選擇氣胸トシテ現在氣胸繼續中。

第 4 節 反對側新病竈ノ出現及ビ

反對側ノ増悪ヲ見シ例

(38) 葛葉某 21 歳 (♀) 農業。

初診 昭和 11 年 7 月 11 日。

診斷 右肺上葉浸潤。

家族歴, 既往歴 共ニナシ。

現病歴 最近體動ニヨリテ熱感アリ食欲不振, 咯痰咳嗽睡眠障害ヲ訴フ。

初診時理學の所見 右肺上葉ニ小水泡音ヲ聽取ス。

レントゲン所見 右側鎖骨部ニ當リ徑 4cm 大ノ空洞ナラビニソノ直下部ニ右側肺門上部ニ連絡ヲ有スル軟陰翳ヲ認ム。

ガフキー 0 號。マントー氏反應 2×3cm。

右肺萎縮狀態經過及ビ反對側新病竈ノ出現時期 肋膜癒着ナク完全氣胸ヲ形成シ補充回数 13 回ニシテ極度ニ萎縮セラル(冊), 16 回補充時ニ左肺上葉ニ浸潤出現ニヨリ氣胸ヲ中止セリ。

S.R. 萎縮進展ニ反シ高度ニ速進セルモ後チ遲延ス。

平均核數 初メ右方後チ左方移動ス。

白血球百分率 著變ナシ。

體溫 常ニ微熱ヲ訴フ。

體重 3kg ノ減少ヲ示ス。

觀察期間 6 ヶ月, 主訴ハ消褪セズ。

第 38 表 葛葉某 21 歳 (♀)

日 月	氣胸 回数	S. R			N. 白血球核分葉數 (觀察細胞 100)					平均 核數	白血球百分率 (觀察細胞 200)					萎縮 狀態	體重	
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V		N	L	M	E	B			
13/ 7	初回前	43	73	116													—	41 kg
15/ 8	5 N.F	53	71	100	45	40	15			1.70	70.5	27.5	1	1			+	42.5 "
12/ 9	9 "	92	125	132	31	53	14	2		1.87	64.5	29.5	5.5	0.5			冊	40.5 "
12/10	13 "	22	44	109	23	62	15			1.92	66	27	5	2			冊	39 "
12/11	16 "	20	38	97	33	48	19			1.86	72.5	21	5.5	1			"	38 "
19/ 1	(—)	21	41	106	48	38	12	2		1.68	83.5	14.5	2				+	37 "
16/ 2	(—)	27	60	116	45	42	12	1		1.69	79.5	16	3.5	1			+	38 "

(39) 高山某 26 歳 (♂) 鐵道員。

初診 昭和 11 年 8 月 22 日。

診斷 左肺上葉浸潤。

家族歴 父肋膜炎ニ罹患ス。

既往症 ナシ。

現病歴 數日來咳嗽及ビ咯痰アリ昨日 1 回咯血セリト。

初診時理學の所見 ナシ。

レントゲン所見 左肺上野ハ大理石紋様ノ軟陰翳ニテ覆ハル。

ガフキー 0 號。マントー氏反應 3×5cm。

左肺萎縮狀態經過及ビ反對側新病竈出現時期 肋膜癒着ナク完全氣胸ヲ形成スレドモ中等度ノ萎縮以上ノ氣胸ヲ望ミ得ズ。頗ル良好ナル經過ヲ辿リシ 1 例ナルモ約 1.5 年繼續後ニ反對側鎖骨下ニ浸潤出現シ左側氣胸ヲ中止シ細心ノ注意ノ下ニ右側氣胸續行中。

S.R. 著シキ遲延ヲ示シ正數トシテ經過ス。

平均核數 右方移動ヲ示シ後チ少シク左方移動セリ

白血球百分率 著變ヲ見ズ。

體溫 平溫。

體重 4kg 増加ヲ示ス。

觀察期間 16 ヶ月。

第39表 高山某 39歳 (♂)

日 月	氣胸 回数	S. R			N. 白血球核分葉數 (觀察細胞100)						白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮 狀態	體重
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V	平均 核數	N	L	M	E	B		
1/9	1 N.F	50	82	116	60	34	5	1	0	1.47	70	12	8	10		—	52 kg
29/9	5 "	18	35	86	45	38	15	2	0	1.74	72.5	11.5	6	10		+	54 "
27/10	9 "	8	22	77	29	39	22	10	0	2.13	83.5	7.5	3	6		+	56 "
26/11	13 "	3	7	54	30	59	10	1	0	1.82	75	14	5	6		+	56 "
17/12	16 "	4	11	59	21	50	24	5	0	2.13	78	14.5	0	7.5		++	56.5 "
13/1	19 "	1	3	29	15	42	35	7	1	2.37	67.5	23.5		9		"	57 "
9/2	23 "	2	5	49	20	47	29	4	0	2.17	78	12	1.5	8.5		"	56.5 "
10/3	27 "	2	5	44	25	60	14	1	0	1.91	76.5	14.5		9		"	56 "
7/4	29 "	3	8	58	19	63	16	2	0	2.01	43.5	51.5		5		"	56.5 "
5/5	33 "	5	12	68	23	55	22	0	0	1.99	67	14	6	13		"	57 "
1/6	36 "	4	10	65	18	56	24	2	0	2.10	75	7.5	5	12.5		"	56.5 "
2/7	39 "	9	22	70	23	61	16	0	0	1.93	76	9	3	12		"	57.5 "
3/8	42 "	5	15	63	29	46	23	2	0	1.98	58	17	1	24		"	56 "
3/9	45 "	1	8	60	33	54	12	1	0	1.81	75	12	4	9		"	56 "
5/10	84 "	2	9	51													
26/11	53 "	2	4	45													
16/12	55 "	2	9	48	23	47	28	2	0	2.09	59	34	2	5		—	56 "

(40) 石橋某 16歳 (♂) 學生.

初診 昭和11年9月4日.

診断 肺浸潤。(左肺偏側氣胸)

家族歴 姉妹結核ニ罹患中.

既往症 ナシ.

現病歴 本年4月右肺尖結核ノ診断ヲ受ケ盜汗ヲ訴フ.

初診時理學の所見 兩側肺尖部濁音ヲ呈シ左側肺尖部ヨリ第3肋間迄中水泡音少許聽取ス.

レントゲン所見 左肺中野ニ於テ懸雲狀ノ軟陰翳アリ. 右肺ニ於テハ鎖骨下ニ小ナル索狀陰翳アリ.

ガフキー0號. マントー氏反應 2×3cm.

左肺萎縮狀態經過及ビ反對側増悪經過 左肺肋膜癒着ナク完全氣胸ヲ形成ス. 補充18回時ニ極度ニ萎縮ス. 補充回数25回時頃ニ右肺ノ陰翳増大ノ勢ヒヲ示シ中野ヨリ肺尖部ニ亘リ大理石紋様ノ陰翳ニテ覆ハル. コノ陰翳ハ其ノ後ノ非常ニ注意深キ氣胸續行中ニ漸次吸收サレ補充33回時ニハ再ビ索狀陰翳トナリ補充44回時ニハ殆ンド吸收サレタリ.

S.R. 最初萎縮進展ニ一致シ遲延正常數ヲ示スニ至レドモ, 右肺ノ浸潤増大ノ勢ヒヲ示スニ及ビ再ビ速進ノ傾向ヲ示シ浸潤吸收經過ト共ニ再ビ遲延シ浸潤ノ出現消褪及ビ左肺萎縮狀態トヨク一致セリ.

平均核數 左肺萎縮進展及ビ浸潤出現消褪ト並行シ最初右方移動ヨリ左方移動ニ轉ジ後ヲ再ビ右方移動セリ.

白血球百分率 著變ナシ.

體溫 平溫.

體重 6kgノ増加ヲ示ス.

觀察期間 15ヶ月現在尙ホ慎重ナル注意ノモトニ氣胸繼續中.

(41) 南某 14歳 (♂) 學生.

初診 昭和11年9月25日.

診断 左側肺門結核.

家族歴, 既往症 共ニナシ.

現病歴 數日來至全身倦怠感, 食欲不振ヲ訴フ.

初診時理學の所見 ナシ.

レントゲン所見 左側肺門部ハ胡桃大ニ増大シ肺内ニ向ツテ數條ノ索狀陰翳増強ス.

ガフキー0號. マントー氏反應 3.5×1.5cm.

左肺萎縮狀態經過及ビ滲出液經過 肋膜癒着ナク完全氣胸ヲ形成シ補充回数5回ニテ既ニ高度ニ萎縮ス. サレド氣胸施行後ヨリ滲出液ノ出現ヲ見, 第5回補充時ニ最高左肺中央部2横指下迄滲溜ス(++) . コノ滲出液ハ其ノ後吸收サレ12回補充時ニハ全ク消褪ス.

22回補充時ニハ反對側ニ滲溜液少許認メ又一般狀態

第40表 石橋某 16歳 (♂)

日 月	氣胸 回数	S. R			N. 白血球核分葉數 (觀察細胞 100)					平均 核數	白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮 狀態	體重
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V		N	L	M	E	B		
21/ 9	1 N.F	52	74	132	53	37	9	1		1.58	69.5	26	3	1	0.5	—	34 kg
27/10	6 "	17	54	119	26	52	21	1		1.97	64.5	17.5	8.5	9.5	+	33 "	
24/11	10 "	5	10	84	22	47	27	4		2.13	67.5	21.5	5.5	5.5	++	35 "	
22/12	14 "	3	6	63	17	50	28	3	2	2.23	72	17.5	4	6.5	++	35 "	
22/ 1	18 "	2	5	35	19	44	30	6	1	2.26	68	24	2.5	5.5	+++	35 "	
2/ 3	21 "	6	15	91	22	56	20	2		2.02	71	16.5	6	6.5	"	36 "	
8/ 4	23 "	5	17	100	19	54	24	3		2.11	71	16	9.5	3.5	"	36 "	
5/ 5	25 "	25	49	110	20	57	23			2.03	75.5	18	4.5	2.0	++	37 "	
3/ 6	27 "	23	52	109	30	56	13	1		1.85	74.5	14.5	10.5	0.5	++	37 "	
8/ 7	30 "	35	64	115	24	62	12	2		1.92	62.5	18	14	5.5	+	37 "	
10/ 8	33 "	23	45	103	26	58	15	1		1.91	76.5	13	2	8.5	++	38 "	
14/ 9	36 "	20	45	95	28	58	13	1		1.87	60.5	17.5	14.5	7.5	++	38 "	
5/10	38 "	25	43	102	15	61	21	2	1	2.13	57.5	23	13.5	6	++	40 "	
6/11	41 "	16	41	111	20	63	14	3		2.00	70	18	9	3	++	39 "	
7/12	44 "	9	32	96	22	55	20	3		2.04	66	21.5	10	2.5	+++	40 "	

ヲモ考慮シ以後氣胸ヲ中止ス。

S.R. 萎縮進展=反シ速進セリ。

平均核數 右方移動セルモ後チ左方移動ス。

白血球百分率 Nノ増加 Lノ減少ヲ認ム。

觀察期間 6ヶ月コノ患者ハ終始輕熱持續シ體重又

減少氣胸開始後10ヶ月ニシテ肺症狀増悪、腹膜炎ヲ併發シ死亡ス。

第41表 南某 14歳 (♂)

日 月	氣胸 回数	S. R			N. 白血球核分葉數 (觀察細胞 100)					平均 核數	白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮 狀態	體重	浸出 液程度
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V		N	L	M	E	B			
28/ 9	初回前	48	83	122	64	28	8			1.44	31	69				—	33.5 kg	—
30/10	5 N.F	49	81	123	48	45	7			1.59	39.5	47	3.5	10	++	34 "	++	
26/11	9 "	47	83	127	41	55	4			1.63	62	32	2	4	++	33 "	+	
17/12	12 "	49	90	126	35	54	11			1.76	65	23	10	2	++	33 "	—	
14/ 1	15 "	68	99	130	32	59	9			1.77	68.5	27.5	2	2	"	32 "	—	
19/ 2	20 "	58	105	130	37	47	15	1		1.80	62.5	29	5.5	3	"	30.5 "	—	
11/ 3	22 "	87	113	133	60	35	5			1.45	56.5	32.5	7	4	"	30 "	—	

(42) 池本某 25歳 (♂) 農業。

初診 昭和11年11月13日。

診斷 肺浸潤。(右肺偏側氣胸)

家族歴、既往症 共ニナシ。

現病歴 1年前ニ咯血アリタリト。

初診時理學的所見 右側肺尖部濁音ヲ呈シ該濁音界及ビ第5肋間マデ小水泡音ヲ聴取ス。

レントゲン所見 右肺ハ全葉懸雲狀ノ軟陰翳ヲ以テ

覆ハレ 鑛骨基部ニ徑4cm大ノ境界不鮮明ノ空洞ヲ有ス。左肺ハ中野ニ於テ2錢銅貨大ノ陰翳ヲ有ス。

ガフキー5號。マントー氏反應 2×2cm。

右肺萎縮狀態經過及ビ反對側増悪時期 肺尖部ヨリ第2肋骨外端ニ及ブ高度ノ癒着ノ爲完全氣胸ヲ形成シ得ズ。肺門部ヲ基點トスル扇形ニ萎縮ス。送氣ニヨル自然剝離不能ナリ。補充回数45回頃ヨリ反對側浸潤再燃増悪スルニ及ビ氣胸中止ス。

S.R. 初メ稍ヤ良好ナレドモ、後チ速進ス。
 平均核數 輕度右方移動シ後チ左方移動ス。
 白血球百分率 著變ヲ認メズ。
 體溫 常ニ微熱ヲ訴フ。

體重 最初ヨリ 7kg 減少ス。
 觀察期間 13ヶ月、ガフキー0號トナレドモ一般狀
 態惡化セリ。

第42表 池本某 25歲 (♂)

日 月	氣胸 回数	S. R			N. 白血球核分葉數 (觀察細胞 100)					白血球百分率 (觀察細胞 200)					萎縮 狀態	體重	
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V	平均 核數	N	L	M	E			B
17/11	初回前	40	78	124	37	43	17	3		1.86	82.5	12.5	4	1		—	54 kg
8/12	4 N.F	20	50	115	27	55	12	6		1.97	70.5	17.5	6.5	5.5	+	56 "	
13/ 1	9 "	30	56	114	29	60	10	1		1.83	82.5	13	2	2	+	56.5 "	
16/ 2	14 "	30	52	110	20	65	10	4	1	2.01	89.5	4	2	4.5	+	55 "	
10/ 3	17 "	15	37	109	25	63	11	1		1.88	87.5	6.5	3	3	++	55 "	
20/ 4	20 "	33	66	117	25	56	18	1		1.95	84.5	5.5	7.5	2.5	++	56 "	
13/ 5	23 "	32	61	108	39	51	7	3		1.74	79	12	5.5	3.5	"	55 "	
9/ 6	26 "	27	56	107	39	48	11	2		1.76	77	12.5	6.5	4	"	55 "	
8/ 7	30 "	45	78	110	40	42	12	4	2	1.85	79	20	0.5	0.5	"	54 "	
12/ 8	34 "	43	69	101	32	60	8			1.76	75	20		5	"	50 "	
14/ 9	38 "	47	80	115	28	58	12	2		1.88	88	6	4	2	"	48 "	
26/10	42 "	42	79	122	32	60	6	2		1.78	78	2		20	"	46 "	
26/11	45 "	55	83	120											"		
15/12	47 "	76	110	129	30	55	12	2	1	1.89	77	7	6	10	"	47 "	

(43) 丸山某 22歲 (♂) 通信業。

初診 昭和12年2月4日。

診斷 左肺上葉浸潤。

家族歴 既往症 共ニナシ。

現病歴 數日來血痰ヲ訴フ。

初診時理學の所見 左側肺尖部ヨリ鎖骨下迄濁音ヲ呈シ呼吸音弱小水泡音少許聽取ス。

レントゲン所見 左肺上葉ハ構造少ナキ氣管枝肺炎狀様陰翳ニテ覆ハル。

ガフキー0號、マントー氏反應 2×2.5cm。

左肺萎縮狀態經過及ビ反對側新病竈出現時期 肋膜癒着ナク完全氣胸ヲ形成ス。補充4回ニテ中等度(++)、10回ニテ高度ニ萎縮ス(+++)。補充4回時ヨリ左肺1/3ニ滲溜液ヲ認メタルモ約2ヶ月ニテ全ク吸收サル。補充23回時頃ヨリ反對側上葉ニ軟陰翳出現、増大ノ勢ヒヲ示ス傾向アルヲ以テ氣胸中止セリ。

S.R. 萎縮進展ニ反シ速進セリ。平均核數左方移動ス。

第43表 丸山某 22歲 (♂)

日 月	氣胸 回数	S. R			N. 白血球核分葉數 (觀察細胞 100)					白血球百分率 (觀察細胞 200)					萎縮 狀態	滲出 液程 度	體重	
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V	平均 核數	N	L	M	E				B
5/ 2	初回前	19	52	114	20	63	16	1		1.58	69	26	3	2		—	—	44 kg
2/ 3	4 N.F	18	47	110	22	62	15	1		1.95	72	18.5	7	2.5		++	++	42.5 "
7/ 4	7 "	27	60	113	29	58	13			1.84	82.5	9.5	6	2		++	+	41 "
4/ 5	10 "	7	21	74	18	62	15	5		2.07	74.5	7	16.5	2		+++	—	40 "
2/ 6	14 "	53	85	123	24	70	6	0		1.82	87.5	8.5	2	2		+++	—	41 "
7/ 7	19 "	54	90	125	33	56	10	1		1.79	82.5	15.5	1	1		+++	—	39 "
7/ 8	23 "	74	107	130	36	57	7			1.71	67	30.5	2	0.5		+++	—	35 "

白血球百分率 Nノ増加Lノ減少ヲ認ム。

體溫 常ニ變動輕熱及ビ高熱ヲ上下ス。

體重 異常減少。9kgノ減少ヲ示ス。

觀察期間 6ヶ月。

(44) 石橋某 14歳 (♀) 學童。

初診 昭和12年3月29日。

診斷 左肺上葉浸潤。

家族歴 兄肺結核ニ罹患中。

既往症 ナシ。

現病歴 健康診斷ヲ希望シ、食欲不振、咳嗽アリ。

初診時理學の所見ナシ。

レントゲン所見 左肺鎖骨直下ニ於ケル徑3cm大ノ

略ボ圓形ノ軟陰翳ナリ。

ガフキー0號。マントー氏反應 2×2cm。

左肺萎縮狀態經過及ビ反對側新病竈出現時期 肋膜癒着ナク完全氣胸ヲ形成シ補充注入14回時ニ高度ニ萎縮ス。補充21回時ヨリ右側肺門部ニ接シ軟陰翳出現スルニ及ビ左側氣胸中止ス。

S.R.及ビ平均核數 初メ良好ニ向ヘドモ再ビ速進及ビ左方移動ス。

白血球百分率 著變ナシ。

體溫 平溫。

體重 3kgノ減少ヲ示ス。

觀察期間 5ヶ月。

第44表 石橋某 14歳 (♀)

日 月	氣胸 回数	S. R			N. 白血球核分葉數 (觀察細胞100)						平均 核數	白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮 狀態	體重
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V	N		L	M	E	B			
2/4	初回前	95	118	125	30	65	4	1			1.76	69.5	24.5	6			—	34 kg
5/5	5 N.F	63	97	124	28	62	10				1.82	56	20	15	9		++	35.5 //
3/6	9 //	38	77	113	22	60	13	4	1		2.02	73.5	15	8	3.5		++	35 //
14/7	14 //	36	66	107													+++	32.5 //
10/8	18 //	40	68	112	15	70	14	1			2.01	68.5	21.5	5	5		//	32 //
9/9	22 //	50	82	120	22	60	17	1			1.97	63.5	33.5	0.5	2.5		//	31 //

(45) 金森某 23歳 (♂) 職工。

初診 昭和12年8月12日。

診斷 右肺上葉浸潤。

家族歴、既往症 共ニナシ。

現病歴 1ヶ月來咳嗽、喀痰。

初診時理學の所見 右肺尖部濁音ヲ呈シ呼吸音微弱ナリ。

レントゲン所見 右肺尖部ヨリ第3肋間ニ亘ル懸雲

狀ノ軟陰翳ニシテ鎖骨下外側ニ徑5cm大ノ空洞ヲ認ム。左側ニ異狀ナシ。

ガフキー10號。マントー氏反應 1.8×1.8cm。

右肺萎縮狀態及ビ反對側新病竈出現時期 肺尖部ニ帶狀癒着アル爲、不完全氣胸ヲ形成シ補充回数17回ニ及ベドモ、中等度萎縮ナリ。透氣ニヨル自然剝離不能。23回補充時頃ヨリ反對側上葉ニ浸潤ヲ生ジ進行ノ傾向ヲ示セルヲ以テ氣胸25回ニシテ中止セリ。

第45表 金森某 23歳 (♂)

日 月	氣胸 回数	S. R			N. 白血球核分葉數 (觀察細胞100)						平均 核數	白血球百分率 (觀察細胞200)					萎縮 狀態	體重
		1st	2st	24st	I	II	III	IV	V	N		L	M	E	B			
14/8	初回前	49	86	125	22	64	11	3			1.95	82	9	7	2		—	51.5 kg
15/9	5 N.F	43	79	123	21	61	16	2			1.99	77	11.5	4.5	7		+	51 //
5/10	8 //	28	57	111	19	54	23	4			2.12	59.5	26	6.5	8		+	51 //
2/11	12 //	26	60	115	10	66	23	1			2.15	69.5	25.5	3	2		+	52 //
8/12	17 //	20	46	115	14	68	16	2			2.06	70.5	21	4.5	4		++	50 //
13/1	22 //	19	40	108	24	63	11	2			1.91	79	18		3		//	49.5 //
8/2	25 //	19	50	114	21	73	4	2			1.87	66.5	21.5	9.5	2.5		//	49 //

S.R. 萎縮進展ト共ニ遲延セリ, 23回時頃ニハ反對側新病竈ノ出現増大ニモ拘ラズ S.R. ハ未ダ影響ヲ蒙ムラザルガ如シ.

平均核數 初メ右方, 反對側新病竈ノ出現ニツレ左方移動ス.

白血球百分率 N ノ減少 L ノ増加ヲ認ム.

體溫 一定セズ微熱或ハ輕熱ヲ訴フ.

體重 51.5kg ヨリ 49kg トナリ 2.5kg ノ減少アリ.

觀察期間 6ヶ月. 氣胸療法ニヨルモ長期間ニ咳嗽ヲ訴ヘタリ, 喀痰ハ最初10號ヲ示セドモ次回ニハ3號, 數回氣胸後結核菌ヲ發見シ得ズ. 反對側新病竈ノ出現ト共ニ氣胸療法中止ス.

第3章 總括並ニ考按

肺結核ニ於ケル S.R. ノ速進及ビ平均核數ノ左方移動ガ肺組織ノ崩壞ニ依ル第2次的ニ起ル身體ノ諸變化中血液ノ諸變化(S.R. ニ就イテ云ヘバ從來唱ヘラレタル血漿内「アルブミン」ノ減少, 「グロブリン」「フィブリノーゲン」ノ増加(大谷⁽¹⁶⁾, Starlinger⁽⁵⁶⁾), 血漿表面張力ノ減少(Sachs u Oettingen⁽⁵⁷⁾), 赤血球陰性荷電量減少(Höber⁽⁵⁷⁾ Fähræus u. Linzenmyer⁽⁵⁷⁾) 等, 平均核數ニ就イテ云ヘバ成熟セル多核性白血球(III, IV, V型)ノ減少シ幼若ナル I型及ビ II型ノ増加ニ基因スルモノトスレバ S.R. 及ビ平均核數ガ正常數ニ近ヅキ得ル可能率ハ人工氣胸ニ依リ如何ナル程度ニ罹患肺ノ組織崩壞ヲ防止シ居ルカ換言スレバ完全氣胸カ不完全氣胸カニ依リ決定セラル、モノト考ヘラレ合併症ナク有効適切ナル完全氣胸ガ形成セラレタル場合ニ於テハ S.R. 及ビ平均核數ハ常ニ正常數ニ接近シ得ルモノト推考シ得ベシ. 仍ツテ余ハ茲ニ實驗例ヲ既述ノ如ク4大別シ各々ノ場合ニ就イテ S.R. 及ビ平均核數ヲ主眼トシ總括並ニ考按セントス.

1) 良好ナル經過ヲ迎リシ例 23例

A) (第46表参照)

S.R. 正常數マデ遲延シ平均核數著シク右方移動シ, 體重増加セルモノ(但シ表番號(13)(14)ハ減少セリ)ヲ包含セリ.

1) 萎縮状態ト S.R. トノ關係

萎縮状態(+)ニ於テ正常 S.R.

ヲ示スニ至レルモノ1例

〃 (++)ニ於テ正常 S.R.

ヲ示スニ至レルモノ3例

〃 (+++)ニ於テ正常 S.R.

ヲ示スニ至レルモノ9例

〃 (卅)ニ於テ正常 S.R.

ヲ示スニ至レルモノ1例

即チ有効適切ナル完全氣胸ニ於テ S.R. ガ正常數ヲ示スニ至レル率ハ余ノ實驗例ニ於テ萎縮状態(卅)ニ於テ最高ニシテ(++)之ニ續キ(+) (卅)ノ順ナリ.

2) 萎縮状態ト平均核數トノ關係

萎縮状態ト相並行シテ平均核數ハ漸次右方移動セリ.

3) 萎縮状態ト體重トノ關係

(1)(13)(14)ヲ除キ最高9 kg(11)最低0.5kg(22)ヲ増加セリ.

B) (第47表参照)

S.R. 輕度遲延シ平均核數著シク右方移動シ, 體重ハ増加セルモノ1例, 不變ヲ示スモノ2例, 減少セルモノ2例ヲ包含セリ.

1) 萎縮状態ト S.R. トノ關係

萎縮状態(++)ニ於テ輕度ノ遲延ヲ

示スニ至レルモノ2例

〃 (卅)ニ於テ輕度ノ遲延ヲ

示スニ至レルモノ3例

2) 萎縮状態ト平均核數トノ關係

萎縮状態ト相並行シテ平均核數ハ右方移動セリ.

3) 萎縮状態ト體重トノ關係

(8)ハ増加, (12)(17)ハ不變, (3)(15)ハ減少セリ.

C) (第48表参照)

S.R. ハ最初ヨリ正常數ヲ示シ平均核數右方移動シ(内, 1例ハ不變ヲ含ム)體重ハ増加セルモノ3例, 不變ナルモノ1例ヲ包含ス.

1) 萎縮状態ト S.R. トノ關係

最初ヨリ正常數ヲ示スガ故ニ著明ナル變化ハナキモ萎縮ニ依リ多少遲延セリ。

- 2) 萎縮状態ト平均核數トノ關係 (10)ノ不變ヲ除キ孰レモ右方移動セリ。
- 3) 萎縮状態ト體重トノ關係 (10)ノ不變ヲ除キ孰レモ増加セリ。

良好ナル経過ヲ辿リシ例ノ總括

- 1) S.R. 孰レモ遲延セリ。
- 2) 平均核數 (10)ノ不變ヲ除キ孰レモ右方移動セリ。
- 3) 體重 (1) (12) (17) (10)ハ不變, (13) (14) (3) (15)ハ減少, 殘ル15例ハ孰レモ増加セ

4) 白血球百分率

- N細胞 { 増加セルモノ2例 (1)(19).
減少セルモノ8例 (2)(10)(11)(12)(15)(16)(21)(22).
- L細胞 { 増加セルモノ8例 (2)(10)(11)(13)(15)(16)(21)(22).
減少セルモノ1例 (1).
- M細胞 { 増加セルモノ2例 (2)(12).
減少セルモノ2例 (14)(19).
- E細胞 { 増加セルモノ6例 (2)(5)(10)(11)(14)(21).
減少セルモノ2例 (13)(19).

著變ナカリシモノハ(3)(4)(6)(7)(8)(9)(17)(18)(20)(23)ノ10例ナリキ。

第 4 6 表

姓	表番號	氣 胸 前					氣 胸 後					氣胸 回数	萎縮 状態
		S. R			平均 核數	體 重	S. R			平均 核數	體 重		
		1st	2st	24st			1st	2st	24st				
荒 木	(4)	54	83	115	1.81	52 kg	5	25	92	2.30	54 kg	22	(+)
福 島	(18)	48	77	123	2.00	41 "	2	8	60	2.32	43.5 "	13	(++)
奥 村	(21)	45	75	123	2.06	57 "	9	24	78	2.17	58.5 "	11	(")
山 本	(22)	78	112	135	1.82	51.5 "	6	24	87	2.14	52 "	20	(")
中 田	(1)	28	55	93	1.92	46 "	5	13	74	2.33	46 "	17	(+++)
村	(2)	63	82	121	1.60	40 "	7	20	79	2.24	43 "	28	(")
根 上	(6)	53	79	114	1.53	43 "	3	9	54	2.27	44 "	20	(")
谷 口	(7)	35	60	112	1.93	48.5 "	7	26	99	2.15	54 "	45	(")
東	(11)	22	47	103	1.89	49 "	3	12	88	2.27	58 "	39	(")
浪 花	(13)	18	38	104	1.80	50.5 "	4	12	70	2.14	44.5 "	32	(")
小 島	(14)	50	99	147	1.75	56 "	9	28	112	2.12	54 "	9	(")
藤 江	(19)	25	49	100	2.08	41 "	5	12	75	2.25	45.5 "	22	(")
北 川	(23)	66	106	129	2.00	44.5 "	5	28	98	2.10	45.5 "	14	(")
越 野	(20)	57	91	126	1.77	50 "	6	18	68	2.23	52 "	23	(+++)

第 4 7 表

姓	表番號	氣 胸 前					氣 胸 後					氣胸 回数	萎縮 状態
		S. R			平均 核數	體 重	S. R			平均 核數	體 重		
		1st	2st	24st			1st	2st	24st				
山 田	(8)	30	61	115	1.72	39 kg	20	53	115	2.18	42 kg	22	(++)
安 村	(12)	27	54	119	2.00	45 "	16	50	106	2.13	45 "	5	(")
島 田	(3)	65	101	133	1.83	50.5 "	27	50	120	2.19	48 "	17	(+++)
才 川	(15)	88	120	137	1.66	50.5 "	36	67	112	2.18	48 "	14	(")
越 島	(17)	18	52	93	1.99	59.5 "	9	28	95	2.14	59.5 "	22	(")

第 48 表

姓	表番號	氣 胸 前					氣 胸 後						
		S. R			平均 核數	體 重	S. R			平均 核數	體 重	氣胸 回数	萎縮 狀態
		1st	2st	24st			1st	2st	24st				
吉 島	(10)	3	7	56	2.25	54 kg	3	8	60	2.25	54 kg	17	(+)
加 納	(16)	2	5	44	2.15	52 //	1	3	20	2.28	56.5 //	31	(++)
今 井	(5)	6	18	68	1.94	55 //	3	7	55	2.36	59 //	25	(+++)
門 村	(9)	8	21	78	2.25	50 //	5	15	47	2.28	54 //	49	(//)

2) 考慮スベキ滲出液ノ瀦溜ヲ見シ例 7 例
人工氣胸ノ際ニ於ケル滲出液ノ發生ハ Bur-
rell⁽⁴⁵⁾ 309 例中 128 例(42%), Riviere⁽⁴⁵⁾ 50%,
Saugman⁽⁴⁵⁾ 67.2%, Weinstein⁽⁴⁵⁾ 70%, Rist 及ビ
Naveau⁽⁴⁵⁾ 52, %, Brauns⁽⁴⁵⁾ 5%, James⁽⁴⁶⁾ 40%
ニ於テ之ヲ見ルト記載シ Rosenthal⁽⁴⁵⁾ ハ自己ノ
經驗ヨリ滲出液ヲ 3 大別シノノ發生率ヲ次ノ如
ク表ハセリ。

Artificial Pneumothorax 54Cases.

- no Effusion 13(24%)
- small E. 25(46%)
- larger E. 16(29%)

Mandl⁽²³⁾ ハ0—70%ニ動搖スト述べ 230 例ノ
中 58 例(25%), Cooper 及ビ Stallings⁽⁴⁶⁾ ハ46%,
Cekalov⁽⁴⁷⁾ 21.8%, Zinn u. Geppert⁽⁶⁾ 22%, Eps-
tein⁽⁴⁸⁾ 27, 小川⁽⁴⁹⁾ 43.5%, Schneider⁽²¹⁾ 28%ニ於
テソレゾレ滲出液ヲ經驗シテキル。

Tallyai Róth⁽⁵⁰⁾ ハ滲出液ヲ 3 群ニ分カチ第 1
群ニハ邊緣滲出液, 第 2 群ニハ横隔膜上 1—2
横指瀦溜セル時, 第 3 群ニハ第 2 群以上ノ滲出
液ノ瀦溜ヲ來セル時ト徴シ 171 例ニ於テ 3 ヶ月
以上人工氣胸ヲ施行セル場合ニハ第 1 群ニ於テ
ハ 44.4%, 第 2 群 10.5%, 第 3 群 7.6%, 又 31
例ニ於テ 3 ヶ月以内人工氣胸ヲ施行セル場合ニ
ハ第 1 群 19.3%, 第 2 群 19.3%, 第 3 群 6.4%
ニテアリシト。之ヲ以テ見ルニ滲出液ノ發現頻
度ハ人工氣胸期間ノ長イ程即チ觀察期間ノ長キ
程大ナルト述ベテキル。

余ノ場合ニ於テハ邊緣滲出液ヲ加フル時ハ優

ニ 90%ニ於テ經驗セルモスカル程度ノ滲出液ハ
考慮スベキ部類ニ屬セズ比較的短時日ニシテ消
褪スベキ性質ヲ有ス。諸家ノ成績ハ此ノ邊緣滲
出液ヲ加算セシヤ否ヤニ依ツテ著シキ變動ヲ來
セシモノト信ズ。

故ニ若シ考慮スベキ滲出液ヲ肺野下 $\frac{1}{2}$ 以上ニ
瀦溜セシ場合ト假定スレバ余ノ實驗ニ於テハ 45
例中 11 例(24.4%)ニ於テ經驗セリ。

今茲ニスカル考慮スベキ滲出液ノ瀦溜ガ S.R.
平均核數, 體重, 白血球百分率ニ如何ニ影響セ
シカ又萎縮狀態ガ如何ナル程度ノ時考慮スベキ
滲出液ノ瀦溜ヲ經驗セルカラ縷述セントス。

1) 滲出液ト S.R. トノ關係(第 2 節實驗成績
表(24)—(30)参照)

(24)ハ肺萎縮ト共ニ遲延セルモ滲出液出現後
ニ再ビ速進セリ。

(25)ハ萎縮セラル、ニ反シ速進シ滲出液出現
時ニ於テハ更ニ速進セリ。

(26)ハ萎縮ト共ニ遲延セルモ滲出液出現時ニ
速進セリ。

(27)ハ萎縮ト共ニ遲延シ滲出液出現時ニ速進
シ滲出液瀦溜度(++)ニ至ツテハ遲延セリ。

(28)ハ萎縮ト共ニ遲延シ滲出液出現ト共ニ速
進セリ。

(29)ハ萎縮セラル、ニ反シ速進シ後チ遲延滲
出液出現時ニ於テハ輕度速進セリ。

(30)ハ萎縮ト共ニ遲延シ滲出液ニ影響セラレ
ズ。

2) 滲出液ト平均核數トノ關係(第 2 節實驗

成績表(24)―(30)参照)

(24)ハ初メ右方, 滲出液出現後=軽度左方移動ス。

(25)ハ初メ右方, 滲出液(卅)以後=左方移動ス。

(26)ハ滲出液(卅)=及ンデ左方移動ス。

(27)ハ初メ右方, 滲出液出現=及ンデ左方移動ス。

(28)ハ初メ右方, 滲出液出現=及ンデ左方移動ス。

(29)ハ初メ右方, 滲出液出現=及ンデ軽度左方移動ス。

(30)ハ初メヨリ右方移動シ滲出液=影響ナシ。

3) 滲出液ト體重トノ關係(第49表参照)

(24)(27)(28)ハ減少, (29)ハ不變, (25)(26)(30)ハ増加セリト雖モ滲出液ヲ考慮スル時ハ(25)ヲ除キ凡テ減少セリ。

4) 白血球百分率(第2節實驗成績表(24)―(30)参照)

N細胞. 増加3例(25)(27)(30),
減少1例(24)

L細胞. 増加1例(24),
減少3例(25)(27)(30)

E細胞. 減少1例(30)

著變ナカリシモノハ3例(26)(28)(29)

5) 萎縮状態ト滲出液トノ關係(第49表参照)
萎縮状態(+)=在リテ滲出液程度

(卅)1例(27)

”(+) = 在リテ滲出液程度

(卅)1例(26)

”(卅) = 在リテ滲出液程度

(卅)1例(24)

”(卅) = 在リテ滲出液程度

(卅)1例(28)

(卅)3例(25)(29)(30)

即チ萎縮状態進展ト共ニ滲出液ノ出現率並ニ滯留量大ナルヲ認ム。

(29)ハ後期ニ至リ滲出液(卅)ヲ認メシナリ。

第49表

姓	表番號	氣 胸 前					氣 胸 後							
		S. R			平均 核數	體 重	S. R			平均 核數	體 重	氣胸 回數	萎縮 状態	滲出 液程 度
		1st	2st	24st			1st	2st	24st					
宮 本	(29)	5	15	90	2.17	57 kg	15	41	105	2.12	57 kg	49	(卅)	(+)
宮 本	(26)	12	29	93	1.86	49.5 "	81	120	133	1.82	50 "	51	(++)	(卅)
高 柳	(27)	44	78	125	1.74	46.5 "	17	25	72	1.91	45 "	38	(+)	(〃)
城 西	(28)	57	79	122	1.83	41.5 "	22	53	93	2.01	39.5 "	28	(卅)	(〃)
岩 見	(24)	72	105	125	1.93	50.5 "	80	112	130	2.14	50 "	20	(卅)	(卅)
宮 本	(25)	30	70	117	1.37	47 "	28	55	101	1.95	47 "	27	(卅)	(〃)
森 田	(30)	55	94	130	1.78	40.5 "	5	17	67	2.04	41 "	17	(〃)	(〃)

3) 高度ノ肋膜癒着ヲ發見セシ例 7

Cutler⁽⁵¹⁾ハ肋膜癒着ヲ String, Band, Apical-Cap = 3大別シ 200例中 173例(86%) = 於テ發見セリト述ベ Schneider⁽⁵²⁾ハ18例中 3例 = 於テ之ヲ認メ經過ヲ追フテ S.R. ヲ觀察スルニ孰レモ速進セルヲ經驗セリ。

余ハ茲ニ高度ノ肋膜癒着 Cutler = 依レバ Apical Cap) ヲ發見セシ例 7 = 就キ S.R. 平均核數, 體重, 白血球百分率ニ如何ニ響セシカラ縷述セントス。

(但シ内 1 例ハ反對側新病竈ノ出現ヲ合併(35), 1 例ハ考慮スベキ滲出液ヲ合併セルモ

200cc穿刺ニ依リ急速ニ吸收セラレタリ。(34)

尙ホ輕度ノ索狀癒着(Cutler = 依レバ String)ハ良好ナル經過ヲ辿リシ例(4)(8)(11)(16)(18)(22)及ビ考慮スベキ滲出液ノ瀧溜ヲ見シ例(24)(25)(26)(27)(29)ニ於テ經驗シ、帶狀癒着(Cutler = 依レバ Band)ハ反對側増悪及ビ反對側新病竈ノ出現ヲ來セシ例(42)(45)ニ於テ經驗セリ。故ニ肋膜癒着ノ總計ハ45例中20例ニシテ44.4%ニ相當ス。

1) 萎縮状態ト S.R. トノ關係(第3節實驗成績表(31)―(37)参照)

(31)ニ於テハ萎縮ト共ニ遲延スレドモ後チ再ビ速進セリ。

(32)ニ於テハ速進セリ。

(33)ニ於テハ萎縮ト共ニ遲延スレドモ後チ再ビ速進セリ。

(34)ニ於テハ萎縮ト共ニ遲延スレドモ後チ再ビ速進セリ。

(35)ニ於テハ萎縮ト共ニ遲延スレドモ後チ再ビ速進セリ。

(36)ニ於テハ萎縮ト共ニ遲延スレドモ後チ再ビ速進セリ。

(37)ニ於テハ萎縮ト共ニ遲延スレドモ後チ再ビ速進セリ。

要スルニ高度ノ癒着アル場合ニハ或ル者ニ於テハ萎縮セララル、ニモ拘ハラズ速進シ1例(32)、或ル者ハ萎縮ト共ニ最初ノ間輕度遲延スレドモ再ビ速進ス、6例(31)(33)(34)(35)(36)

(37)。

2) 萎縮状態ト平均核數トノ關係(第3節實驗成績表(31)―(37)参照)

(31)ニ於テハ初メ右方、後チ左方移動セリ。

(32)ニ於テハ左方移動セリ。

(33)ニ於テハ右方移動セリ。

(34)ニ於テハ初メ右方、後チ左方移動セリ。

(35)ニ於テハ反對側新病竈出現期ニ左方移動セリ。

(36)ニ於テハ初メ右方、後チ左方移動セリ。

(37)ニ於テハ初メ右方、後チ左方移動セリ。

右方移動セルモノ1例(33)、初メ右方後チ左方移動セルモノ5例(31)(34)(35)(36)(37)、左方移動セルモノ1例(32)ヲ認メタリ。

3) 萎縮状態ト體重トノ關係(第50表参照)

(31)(33)(34)(35)(36)(37)ニ於テ減少シ、

(32)ニ於テハ不變ナリ。

4) 白血球百分率(第3節實驗成績表(31)―(37)参照)

N細胞。増加セルモノ2例(31)(33)、減少セルモノ4例(32)(34)(35)(37)。

L細胞。増加セルモノ4例(32)(34)(35)(37)減少セルモノ2例(31)(33)。

E細胞。増加セルモノ1例(34)

著變ナカリシモノ1例(36)ナリキ。

而シテN細胞ハ減少セルモノニ於テハ異常減少シ、L細胞ハ増加セルモノニ於テハ異常増加セリ。

第50表

姓	表番號	氣 胸 前					氣 胸 後						
		S. R			平均核數	體 重	S. R			平均核數	體 重	氣胸回數	萎縮狀態
		1st	2st	24st			1st	2st	24st				
源	(31)	96	121	130	1.65	36 kg	81	108	126	1.75	35 kg	37	(++)
高木	(32)	49	100	126	1.91	52.5 "	73	110	126	1.78	52.5 "	10	(+)
川尻	(33)	45	72	113	1.99	43 "	30	55	100	2.14	40 "	18	(++)
竹田	(34)	19	45	107	1.87	35 "	60	90	125	1.87	33 "	12	(+)
橋本	(35)	76	119	135	1.70	49 "	71	107	132	1.85	42 "	17	(+)
金石	(36)	80	122	135	1.93	37 "	96	131	140	2.01	35 "	41	(+)
東野	(37)	58	91	125	1.78	44 "	32	60	105	1.78	38 "	27	(++)

4) 反対側新病竈ノ出現及ビ反対側増悪ヲ見シ例 8

氣胸ニ際シ反対側ノ新病竈出現及ビ反対側増悪ヲ見シ例ハ Jablokov⁽⁵²⁾ 20—25%, Edonard Rist⁽⁵³⁾ 26%, 住吉, 故倉⁽⁵⁴⁾ 7例, Cekalov⁽⁴⁷⁾ 11%, Zinn, Geppert⁽⁵⁾ 3%, Cooper, Walter E, Stallings⁽⁴⁶⁾ 12%, Epstein⁽⁴⁸⁾ 8%, 小川⁽⁴⁹⁾ 18.8% デアル。

翻ツテ余ノ場合ニ於テハ 4)ノ反対側新病竈ノ出現及ビ反対側増悪ヲ見シ例 8例 3)ノ高度ノ肋膜癒着ヲ生ゼン例ノ内 1例(35), 合計 9例ニシテ 20%ニ相當ス。

斯カル反対側新病竈ノ出現及ビ反対側増悪ヲ見シ場合 S.R., 平均核數, 體重, 白血球百分率ハ如何ニ影響セラレシカヲ茲ニ縷述セントス。

1) 反対側新病竈ノ出現及ビ反対側増悪ト S.R.トノ關係(第4節實驗成績表(38)—(45)参照)

(38)ニ於テハ萎縮ト共ニ反対ニ速進シ反対側新病竈出現期ニハ遅延セリ。Sopp⁽⁵⁵⁾, ノ經驗セル Anergische S.R.ニ屬スルモノナランカ。

(39)ニ於テハ漸次良好ナル S.R.ヲ示シ正常數迄遅延セルモ約 1.5年後ニ反対側ニ新病竈出現ヲ見タリ。表ニハ遺憾乍ラソノ時期ノ S.R.ヲ記載シ得ズ。

(40)萎縮ト共ニ 1時間値 2 mm 迄遅延セルモ反対側増悪ニ際シ速進セリ。

(41)ニ於テハ最初ヨリ遅延ヲ示サズ滲出液出現スルニ及ビテ速進セリ。

(42)ニ於テハ萎縮ト共ニ軽度遅延セルモ肋膜癒着ヲ生ジ反対側増悪ト共ニ速進セリ。

(43)ニ於テハ最初ヨリ遅延ヲ示サズ補充 4 回時ニ滲出液ヲ認メ次ニ反対側新病竈出現ト共ニ速進セリ。

(44)ニ於テハ萎縮ト共ニ軽度遅延スレドモ反対側新病竈出現ト共ニ速進セリ。

(45)ニ於テハ萎縮ト共ニ遅延シ反対側新病竈出現シ増悪セルモ速進スルコトナシ。即チ反対側新病竈出現及ビ反対側増悪ノ場合ノ S.R.ハ種々雜多ニシテ(40)(41)(42)(43)(44)ニ於テ速進, (38)ハ遅延, (45)ハ速進スルコトナカリキ。

(39)ハ省略ス。

2) 反対側増悪ト平均核數トノ關係(第4節實驗成績表(38)—(45)参照)

(38)ニ於テハ漸次右方移動スレドモ反対側新病竈出現ニ際シ左方移動セリ。

(39)ニ於テハ漸次右方移動セリ。

(40)ニ於テハ漸次右方移動スレドモ反対側増悪ニ際シ左方移動セリ。

(41)ニ於テモ同様ナリ。

(42)ニ於テハ著明ナル變動ナシ。

(43)ニ於テハ最初ヨリ左方移動セリ。

(44)ニ於テハ漸次右方移動スレドモ反対側新病竈出現ニ際シ軽度左方移動セリ。

(45)ニ於テハ漸次右方移動スレドモ反対側新病竈出現ニ際シ軽度左方移動セリ。

凡テニ於テ反対側新病竈出現及ビ増悪ニ際シテハ左方移動スレドモノノ平均核數ハ氣胸前ノ平均核數ヨリ大ナルモノ(38)(40)(41)(42)(44)ニ於テ認メ小ナルモノニ(43)(45)於テ認メタリ。

(39)ハ省略ス。

3) 反対側新病竈出現及ビ反対側増悪ト體重トノ關係(第51表参照)

(40)ノ増加ヲ認メタル外ハ孰レモ減少セリ。

(39)ヲ省略ス。

4) 反対側新病竈出現及ビ反対側増悪ト萎縮状態トノ關係(第51表参照)

萎縮状態(++)ニテ増悪ヲ見タモノ 3例

(39)(42)(45).

〃 (###)ニテ増悪ヲ見タモノ 3例

(40)(41)(44).

〃 (###)ニテ増悪ヲ見タモノ 2例

(38)(43).

(39)ハ萎縮状態(++)ニ於テ増悪ヲ示セリ。

5) 白血球百分率(第4節實驗成績表(38)—(45)参照)

N細胞. 増加 1例 (41),

減少 1例 (45)

L細胞. 増加 1例 (45),

減少 2例 (41)(42)

E細胞. 増加 1例 (42),

減少1例 (44) キ.
著變ナカリシモノハ3例 (38) (40) (43) ナリ (39) ヲ省略ス.

第51表

(氣胸回数ハ略ボ反對側新病竈出現及ビ反對側増悪期ニ一致ス)

姓	表番號	氣 胸 前					氣 胸 後							
		S. R			平均 核數	體 重	S. R			平均 核數	體 重	氣胸 回数	萎縮 状態	滲出 液程 度
		1st	2st	24st			1st	2st	24st					
葛 葉	(38)	43	73	116	1.70	41 kg	20	38	97	1.86	38 kg	17	(卅)	(一)
高 山	(39)	50	82	116	1.47	52 "	1	8	60	1.81	56 "	46	(卅)	(〃)
石 橋	(40)	52	74	132	1.58	34 "	25	49	110	2.03	37 "	26	(卅)	(〃)
南	(41)	48	83	122	1.44	33.5 "	87	113	133	1.45	30 "	23	(〃)	{(卅) (一)}
池 本	(42)	40	78	124	1.86	54 "	76	110	129	1.89	47 "	48	(卅)	(一)
丸 山	(43)	19	52	114	1.98	44 "	74	107	130	1.71	35 "	24	(卅)	{(卅) (一)}
石 橋	(44)	95	118	125	1.76	34 "	50	82	120	1.97	31 "	23	(卅)	(一)
金 森	(45)	49	86	125	1.95	51.5 "	19	50	114	1.87	49 "	26	(卅)	(一)

(41)ハ考慮スベキ滲出液ノ瀧溜ヲ見シ例ニ屬スベキモノナルモ腹膜炎ヲ併發シ死亡セル爲メ便宜上此ノ表ニ加ヘタリ)

第52表 合併症總括

合併症 症 例 大 別	滲 出 液	肋 膜 癒 着	反 對 側 新 病 竈 出 現 及 ビ 増 悪	滲 出 液 + 肋 膜 癒 着	滲 出 液 + 反 對 側 新 病 竈 出 現 及 ビ 増 悪	肋 膜 癒 着 + 反 對 側 新 病 竈 出 現 及 ビ 増 悪	總 計	百 分 率
良好ナル經過ヲ 辿リシ例	(6)	(4)(8)(11) (16)(18)(22)	0	0	0	0	7	15.5%
考慮スベキ滲出 液ノ瀧溜ヲ見シ 例	(24)(25)(26) (27) (28)(29)(30)	(24)(25)(26) (27)(29)	0	(24)(25)(26) (27)(29)	0	0	17	37.8%
高度ノ肋膜癒着 ヲ發見セシ例	(34)	(31)(32)(33) (34) (35)(36)(37)	(35)	(34)	0	(35)	11	24.4%
反對側新病竈ノ 出現及ビ反對側 ノ増悪ヲ見シ例	(41)(43)	(42)(45)	(38)(39)(40) (41)(42) (43)(44)(45)	0	(41)(43)	(42)(45)	16	35.5%
總 計	11	20	9	6	2	3		
百 分 率	24.4%	44.4%	20%	13.3%	4.4%	6.7%		

結 論

1) 本論文ハ昭和11年7月ヨリ同13年5月迄ノ間ニ石川縣健康相談所ヲ來訪セシ主トシテ偏側人工氣胸適應症45例ニ就キ經過ヲ追フテ主トシテS.R.及ビ中性嗜好白血球ノ平均核數ガ如何

ニ變動セシカラ検索セルモノナリ.

2) 觀察期間. 最高18ヶ月最低1ヶ月平均8.6ヶ月ニ及ベリ.

3) 滲出液出現ノ頻度. 11例(24.4%), 滲出

液邊縁ニ止マルモノヲ加算セバ90%。

4) 肋膜癒着發見率。20例(44.4%)

5) 反對側新病竈ノ出現及ビ反對側増悪頻度。9例(20%)

6) 滲出液、肋膜癒着ノ發見及ビ反對側増悪ノ頻度ハ萎縮状態ノ進展ニツレテ大ナリ。

7) 良好ナル経過ヲ辿リシ例。

S.R.; 4例ヲ除キ孰レモ正常數ヲ示スニ至レリ。

平均核數; 孰レモ右方移動セリ。

白血球百分率; 概シテN細胞ノ減少, L, E細胞ノ増加ヲ認メタリ。

體重; 15例ハ増加, 4例ハ不變, 4例ハ減少セリ。

自覺的症狀; 全ク消褪ス。

8) 考慮スベキ滲出液ノ瀰溜ヲ見シ例。

S.R.; 萎縮進展ト共ニ遲延セルモノノ大多數ヲ占ムレドモ滲出液發現前後ニ速進セリ。

平均核數; 萎縮進展ト共ニ右方移動スレドモ滲出液發現前後ニ左方移動セリ。

白血球百分率; 概シテN細胞ノ増加, L, E細胞ノ減少ヲ認メタリ。

體重; 1例ヲ除キ孰レモ減少セリ。

自覺的症狀; 輕熱ヲ訴ヘシモノアルモ爾餘ノ症狀消褪セリ。

9) 高度ノ肋膜癒着ヲ發見セシ例。

S.R.; 萎縮當初ニ輕度ノ遲延ヲ認ムルモ再ビ速進ス。

平均核數; 萎縮當初ニ右方後チ左方移動ス。

白血球百分率; N細胞ノ異常減少L細胞ノ異常増加ヲ認ム。

體重; 減少ヲ示ス。

自覺的症狀; 輕減ス。

10) 反對側新病竈ノ出現及ビ反對側増悪ヲ見シ例。

S.R.; 最初ヨリ速進スルモノ, 最初遲延, 新病竈出現及ビ増悪期ニ速進スルモノ, 遲延スルモノ等雜多ナレドモ概シテ新病竈出現及ビ増悪期ニハ速進ス。

平均核數; 新病竈出現及ビ増悪期ニ左方移動ヲ認ム。

白血球百分率; N, L, E細胞ノ増減相半ス。體重; シテ減少ス。

自覺的症狀; 輕快セズ。

11) マントー氏反應; 凡テニ於テ陽性, 而シテ病竈ノ性状トハ無關係ナリキ。

12) 外來氣胸ニ於テハ收容氣胸ニ際シテ現ハル、諸家ノ滲出液出現率並ニ反對側新病竈ノ出現及ビ反對側増悪頻度ヨリ大ナラズ。

13) S.R. 及ビ平均核數ノ推移ハ全ク症狀ノ経過如何ニ左右セラレ人工氣胸ニ依リ症狀輕快スル時ハ遲延及ビ右方移動ヲ來シテ正常ニ復セントスル傾向ヲ示スモ考慮スベキ滲出液ノ瀰溜, 高度ノ肋膜癒着發見並ニ反對側新病竈ノ出現及ビ反對側増悪ヲ見ル時ハ速進及ビ左方移動ヲ來シ S.R. 及ビ平均核數ハ相並行ス。

稿ヲ終ルニ臨ミ終始御懇篤ナル御指導ト御校閲ノ勞ヲ賜ハリタル恩師大里教授並ニ舊石川縣健康相談所主任醫中島博士ニ深甚ノ謝意ヲ表スルト共ニ實驗ニ當リテ毎回血液ヲ給與セラレタル患者諸氏ニ對シテ之亦深甚ノ謝意ヲ表スルモノデアル。

主 要 文 獻

1) **Forlanini**, Zur Behandlung d. Lungenschwindsucht durch Künstl. erzeugten Pneumothorax. Deutsche Med. Wochenschr., Nr. 35, 1906, S. 1401, 1404. 2) **Gaetano, Ronzoni**, Carlo Forlanini and the Contribution of the Italian School to

pulmonary Collapse Therapy. The Amer. Rev of Tub., Vol. 18, 1928, P. 102. 3) **Brauer u.**

Spengler, Klin. Beobacht. bei Künstl. Pn.-Th. Beitr. z. Kl. Tbk., Bd. 1911. 4) **Saugman**

u. Hansen, Kl. Erfahrungen über d. Behandl.

- d. I.-tbk. mit Künstl. Pneumothorax. Beitr. z. Klin. d. Tbk., Bd. 15, 1910, S. 453. 5) **Zinn u. Geppert**, Beitr. zur Pn.-Th.-Therapie d. I.-tbk. Beitr. z. Klin. d. Tbk., 33, 1915, S. 169.
- 6) **熊谷**, 肺結核ノ遂進ニ就テ. グレンツゲビート, 2卷, 1號, 昭3. 7) **永井**, 肺結核ノ人工氣胸療法及ビ其實驗報告. 日新醫學, 6年, 7號, 大正6年, 1189頁. 8) **Westergren**, Über d. Suspensionsstabilität d. Blutes bei I.-tbk. Beitr. z. Kl. d. Tbk., Bd. 46, 1921, S. 285. 9) **Katz**, Die Senkung d. roten Blutkörperchen in Zitiatbl. bei I.-tbk. Zeitschr. f. Tbk., Bd. 35, 1922, S. 401.
- 10) **Frisch u. Starliger**, Über das Flockungsvermögen d. Blutplasmas bei I.-tbk. Med. Kl., Jg. 18, Nr. 8, 1922, S. 247—248. 11) **Frisch u. Starlinger**, Über d. Kl. Verwertung d. S. G. d. Erythrocyten bei d. I.-tbk. Med. kl., Jg. 17, Nr. 39, 1921, S. 1178. 12) **Mathé**, Die S. G. d. roten Blutkörperchen unter besonderer Berücksichtigung d. Verhältnisse bei d. I.-Phthise Zeitschr. f. Tbk., Bd. 39, 1924, S. 265, 267.
- 13) **Müller**, Über d. Prognostische Bewertung d. S. R. d. roten Blutkörperchen bei Stillstehenden u. fortschreitenden Fällen von I.-tbk., Beitr. z. Klin. d. Tbk., Bd. 84, H. 3, 1934, S. 309. 14) **Windrath u. Garnatz**, Über d. S. G. d. roten Bl.-körperchen bei I.-tbk. Zeitschr. f. Tbk., Bd. 40, 1924, S. 209. 15) **渡部**, 内科的結核性疾患ニ於ケル S. R. ノ臨床的意義. 十全會雜誌, 第30卷, 649頁. 16) **大谷**, 内科的疾患ニ於ケル S. R. ニ就テ. 日新醫學, 第15卷, 757頁. 17) **山口**, 結核患者ノ赤血球沈降速度. 結核, 第10卷.
- 18) **小坂**, 肺結核手術ノ S. R. ニ及ボス影響. 十全會雜誌, 第36卷, 156頁. 19) **倉金**, 肺結核患者ニ於ケル白血球核移動ト S. R. ノ關係. 十全會雜誌, 第42卷, 第3號, 887頁. 20) **向野**, 肺結核ノ S. R. ノ知見補遺. 十全會雜誌, 第36卷, 1539頁. 21) **Schneider**, Bedeutung d. Blutsenkungsprobe beim K. Pn. Th. Zeitschr. f. Tbk., Bd. 38, H. 6, 1923, S. 420. 22) **Düll**, Die S. G. d. roten Blutkörperchen bei d. Tbk. u. s. w. M. m. W., Jg. 72, Nr. 13, 1925. 23) **Maendl**, Zur Frage d. Dauerfolge nach K.-Pn.-Th., Beitr. z. Kl. d. Tbk., Bd. 58, 1924. 24) **向野**, 肺結核ノ人工氣胸經過中ニ於ケル S. R. 十全會雜誌, 第36卷, 1615頁. 25) **R. Gripenberg**, Über die S. G. d. roten Blutkörperchen bei I.-tuberkulösen mit K.-Pn. Th. Acta tubercul. Scandinav., Vol. 1, 1925. 26) **Arneht**, Die Qualitative Blutlehre 1920. 27) **杉山**, 多核白血球ノ核移動ノ検査ニ就イテ. 十全會雜誌, 第38卷, 53頁. 28) 同人, 白血球ノ核移動ノ本態ト其ノ臨床的意義. 十全會雜誌, 第43卷, 1636頁. 29) **深山, 大里**, 健康鮮人59名及ビ健康在鮮内地人50名ニ於ケル N. L. ノ核型ニ就イテ. 十全會雜誌, 第40卷, 4896頁. 30) **入江, 橋**, 健康日本人69名ニ於ケル N. L. ノ核型ニ就テ. 十全會雜誌, 第37卷, 2603頁. 31) **橋, 藤田, 宮村**, 健康日本人學生ニ於ケル N. L. ノ核型. 十全會雜誌, 第39卷, 1921頁. 32) **Altschuller**, Zur Frage über die Blutveränderungen beim K.-Pn.-Th. Beitr. z. Kl. d. Tbk., Bd. 52, 1922, S. 203. 33) **加藤**, 臟器及ビ組織中ニ於ケル白血球ノ核移動ニ就テ. 十全會雜誌, 第41卷, 12號. 第43卷, 6號. 34) **市場**, 外科的疾患ニ於ケル白血球ノ核移動ニ就テ. 十全會雜誌, 43卷, 7號, 1949頁. 35) **大月**, 白血球ノ核移動ニ關スル研究補遺. 十全會雜誌, 42卷, 8號, 2437頁. 36) **Chini u. Virgilio**, Die Eosinophilie u. Pneumothoraxfüllungen Zentr. f. d. g. Tbk., Bd. 28, 1928, S. 650. 37) **Russev**, Über die Morphologie der Blutes im Verlaufe d. Pneumothoraxbehandlung bei d. I.-tbk. Beitr. z. Kl. d. Tbk., Bd. 68, 1928, S. 522—526. 38) **佐々木**, 氣胸ニ際シテ現ハルル白血球像ノ變化. 十全會雜誌, 第36卷, 1394頁. 39) **Everbusch**, Die Bedeutung d. Blutbildes für den Klinischen Betrieb d. Heilstätte. Beitr. z. Kl. d. Tbk. Bd. 65, 1927, S. 432. 40) **Gutstein**, Zeitsch. f. Tbk., Bd. 26, 1916, S. 336. 41) **向野**, 肺結核ノ人工氣胸經過中ノ血液像ニ就テ. 十全會雜誌, 第36卷, 1615頁. 42) **Tenenbaum u. Reiterowski**, Zweijahre ambulatorischer Verwendung d. K.-Pn.-Thorax. Zentr. f. d. g. Tbk., Bd. 34, 1931, S. 628. 43) **岡部**, 東北醫學雜誌, 第17卷, 144頁. 44) **菅沼**, 肺結核人工氣胸療法. 79頁. 45) **Rosenthal**, The Incidence of Pleural Effusion in artificial Pn.-Thorax. Brit. Med. Journ.,

- Jan. 18 th. 1936, P. 96. 46) **Cooper and Stallings**, A Study of artificial Pneumothorax. Treatment in Pulmonary Tuberculosis. The Amer. Rev of Tbc., Vol. 20, 1929, P. 783, 785. 47) **Cekalov**, Die Dauerresultate nach Anlegung eines Künstl. Pn.-Th. bei d. L.-tbk. u. die dabei auftretenden Komplikationen. Zentr. f. d. g. Tbk., Bd. 32, 1930, S. 106. 48) **Epstein**, Über Dauer-u. Endresultate bei der Pn.-Th.-behand. u. s. w. Zeits. f. Tbk., Bd. 43, 1925, S. 465. 49) **小川**, 人工氣胸ノ統計. 結核, 第11卷, 217頁. 50) **Tállyai-Róth**, Zehn Jahre Erfahrungen in der Kollapstherapie d. Lungen tuberkulose. Beitr. z. Kl. d. Tbk., Bd. 86, 1935, S. 9, 10. 51) **Cutler**, The Management of Adhesions in artificial Pneumothorax. The Amer. Rev of Tbc., Vol. 30, 1934, P. 416, 417. 52) **Jablokov**, Behndl. d. L.-tbk. mit Künstl. Pn. Thorax. Zentr. f. d. g. Tbk., Bd. 31, 1929, S. 363. 53) **Edonard, Rist**, Results of artificial Pneumothorax. The Amer. Rev. of Tbc., Vol. 15, 1927, P. 301. 54) **佐吉, 故倉**, グレンツゲビート, 昭2, 8月. 55) **Sopp**, Die Bedeutung d. Bestimmung d. Blutkörperchensenkungsgeschwindigkeit in d. Tb.-fürsorge. Beitr. z. Kl. d. Tbk., Bd. 87, 1936, S. 86. 56) **Starlinger**, Agglutination u. Senkungsgeschwindigkeit d. Erythrocyten. Biochem. Zeitschr., Bd. 114, 1921, S. 143. 57) **Sachs u. Oettingen**, Zur Biologie d. Blutplasmas. Mün. med. Wochenschr., Nr. 12, 1921, S. 352, 353.